

天白区 高坂小学校としまだ小学校の統合に関する
取り組み（回覧・配布資料一覧）について

時期	概要	資料	資料頁
令和元年12月	説明・意見交換会の開催 高坂 : 12/6, 7 しまだ : 12/13, 14	高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会	P1-2
		なごや小学校の「学校統合に関するアンケート」の実施結果	港区 P3-4
令和2年1月・2月	説明・意見交換会の開催 結果の報告・周知	「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果だより	P3-4
		「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果	P5-15
		「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果だより	P17-18
		「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果	P19-25
令和2年6月	統合に関する質問と教育委員会の考え方の周知	高坂小学校の統合に関するご質問と教育委員会の考え方について	P27-37
令和2年7月	高坂小学校保護者説明会の開催		
令和2年7月・8月	高坂小学校未就学児保護者相談会		
令和2年10月	保護者説明会の開催結果の報告・周知	「高坂小学校保護者説明会」の開催結果、及び「高坂小学校統合について保護者の意識アンケートの結果」について	P39-50
	学校跡地の避難所について周知	学校跡地の避難所	P51-54
	統合（案）について周知	高坂小学校としまだ小学校の統合（案）について	P55-56
令和2年11月	未就学児保護者相談会の開催結果の報告・周知	「高坂小学校未就学児保護者相談会」の開催結果	P57-63

高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会

1 小規模校の特徴

よさ	・学校行事ですべての児童に活動の場を与えやすい。 ・異学年の交流が図りやすい。 ・一人ひとりの児童にきめの細かい指導がしやすい。
課題	・日々の学校生活の中で、様々な考え方や価値観に出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会に限られる。 ・子どもたちの実態に応じたクラス替えが困難であるため、人間関係の固定化や男女比の偏りが生じやすい。 ・体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる。 ・小規模校では教員数が少ないため、教員一人あたりの校務や行事に関わる負担が重くなる。

上記のような小規模校の課題を解決しつつ、小規模校のよさを残しながら、児童にとってよりよい教育環境にするため、小学校では 12 学級以上が必要であると考えます。

2 高坂小学校の現状等

(1) 学級数・児童数

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支
1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	1 学級	2 学級
16 人	17 人	14 人	20 人	14 人	20 人	6 人
107 人						

特支：特別支援学級（以下同じ）

(2) 学区の未就学児数

0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
27 人	31 人	31 人	29 人	20 人	24 人
162 人					

(3) 今後の見込み

令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級	6 学級
101 人	101 人	104 人	109 人	122 人	133 人	143 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

3 しまだ小学校の現状等

(1) 学級数・児童数

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支
3 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級	2 学級
70 人	56 人	64 人	76 人	63 人	67 人	3 人
399 人						

(2) 学区の未就学児数

0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
57 人	63 人	52 人	56 人	64 人	72 人
364 人					

(3) 今後の見込み

令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
13 学級	14 学級	14 学級	13 学級	12 学級	13 学級	13 学級
396 人	402 人	403 人	382 人	366 人	375 人	360 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

4 統合（案）

しまだ小学校の場所で、高坂小学校としまだ小学校を統合

(1) 選定理由

- 出身の幼稚園・保育園の状況が、久方中学校区の小学校の中では高坂小学校・しまだ小学校のつながりが深い。
- しまだ小学校の敷地面積が、久方中学校区の小学校の中で一番広い。
- しまだ小学校を統合地とした場合、両学区での通学距離が概ね 2 km 以内となる。

(2) 学級数・児童数

※現時点で 2 校が統合していたと仮定した場合

1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	特支
3 学級	3 学級	2 学級	3 学級	2 学級	3 学級	2 学級
86 人	73 人	78 人	96 人	77 人	87 人	9 人
506 人						

(3) 未就学児数

0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳
84 人	94 人	83 人	85 人	84 人	96 人
526 人					

(4) 今後の見込み ※それぞれ 2 校が統合したと仮定した場合

令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
16 学級	16 学級	17 学級	16 学級	17 学級	19 学級	16 学級
497 人	503 人	507 人	491 人	488 人	508 人	503 人

※特別支援学級の人数・学級数は含みません。

(5) 通学距離（最も遠い地点からの距離）

高坂学区（久方三丁目） ～ しまだ小学校 1.7 km

（参考）しまだ学区（高島二丁目） ～ 高坂小学校 2.1 km

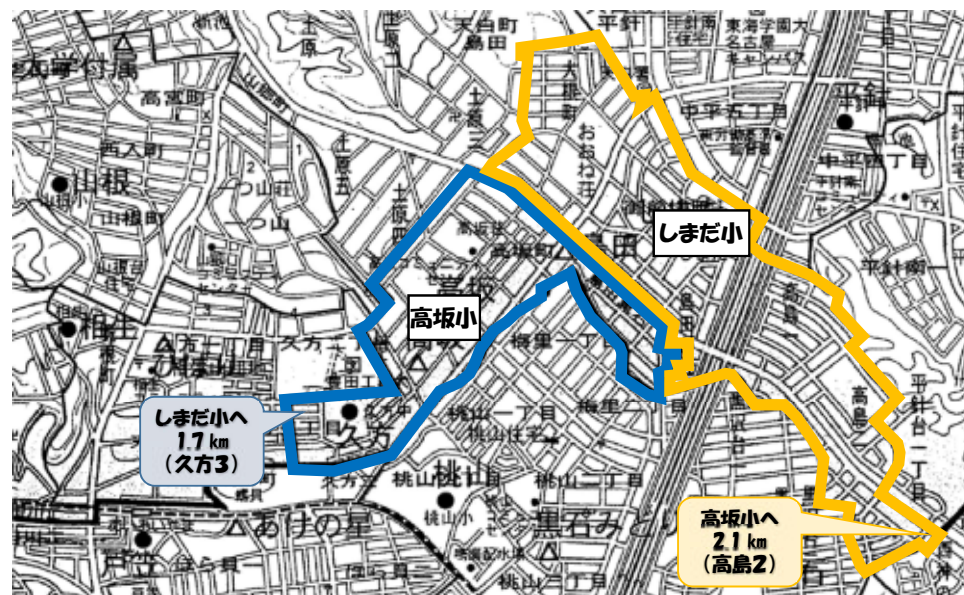
5 施設の現況等

区分	高坂小学校	しまだ小学校
校地面積	12,396 m ²	16,579 m ²
普通教室数	14 教室	23 教室
校舎	北校舎棟(西)昭和 41 年築(築 53 年) 北校舎棟(東)昭和 41 年築(築 53 年)	南校舎棟 昭和 46 年築(築 48 年) 北校舎棟 昭和 49 年築(築 45 年)
体育館	体育館棟 昭和 44 年築(築 50 年)	体育館棟 昭和 48 年築(築 46 年)
沿革	昭和 44 年 天白小学校から分離	昭和 47 年 高坂小学校から分離
学区面積	0.348 km ²	0.697 km ²
学区人口総数	3,579 人	7,919 人

6 統合について

- (1) 統合校のあり方は、原則として、統合により一方の学校を残し、他方の学校を廃止するのではなく、新しい学校を開設するという考え方で、各校の特色や良さを継承・発展させるよう統合後の学校づくりに取り組みます。
- (2) 新たな人間関係をスムーズに構築できるよう児童相互の交流活動を実施します。
- (3) 統合校への教員の配置に際しては、児童や保護者・地域等を理解した教育が継続できるよう、統合前の学校の教員をバランスよく配置できるようにします。
- (4) 通学の安全については、関係行政機関（警察や土木事務所等）と連携を図り、地域ごとの通学路や交通状況の特性を踏まえ、通学の安全確保に取り組みます。
- (5) 統合により使用しなくなる校地や校舎については、防災拠点等、地域に必要な機能に配慮しながら余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。
- (6) これまでの統合校の地域活動は、いずれの地域も統合前と変わらずに従前の学区組織の単位で行われています。

※資料中の数値は、いずれも令和元年度時点です。



※この地図の作成にあたっては、名古屋市学校配置図の一部を使用し、複製したものです。（東洋地図株式会社承諾済）

【メモ】

「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果だより

発行：令和2年1月

日時：令和元年12月6日（金）午後7時～
令和元年12月7日（土）午前10時～
会場：高坂小学校体育館

1 開催結果

令和元年12月6日（金）及び7日（土）、高坂小学校体育館で高坂小学校の保護者及び地域の方を対象とした「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」を行いました。2日間で、延べ95人の方にご参加をいただきました。

説明・意見交換会で配布した資料及び当日の意見・質問と教育委員会の考え方の詳細については、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000121756.html>



区分	保護者	地域住民	合計
12月6日	30人	14人	44人
12月7日	31人	20人	51人
累計	61人	34人	95人

2 会場での主な意見・質問

- ・小さい学校の方が子どものことをよく見てくれる。
- ・小規模校の何が課題なのか疑問である。
- ・統合すれば友達が増えるのは良い面である。
- ・高坂小は他学年交流もあり子どもも気に入っているのに、統合と聞くと仕方ない気持ちと複雑な気持ちがある。
- ・以前の計画では相手校は相生小だったのが、なぜしまだ小になったのか。
- ・子どもの不安にどうケアしてくれるか。
- ・通学距離が長くなることにより熱中症などが心配。
- ・通学安全や不審者対策はどう考えているか。
- ・今後どのように統合していくのか流れを知りたい。
- ・今後のスケジュールを知りたい。
- ・小学校がなくなるのは地域を置き去りにしていると感じるがどうか。
- ・小学校がなくなるとなおさら子どもが減ることにならないか。
- ・防災の機能が残るという点については、安心した。
- ・学童保育はどうなるか。
- ・しまだ小の液状化の可能性についてどう考えているか。

3 教育委員会の考え方

- ・統合の必要性については、子どもたちが多くの仲間や教員の中で学ぶことが必要と考えています。多様性を学ぶためには、クラス替えのできる学校規模が必要と考えており、国も12学級以上を標準としています。なごや小のアンケートでは、子どもたちの統合してよかったという声が多くありました。
- ・高坂小は今後、児童数が増えて小規模校が解消される可能性が見込めないため、望ましい学校規模を確保するためには、統合は避けては通れないと考えています。
- ・通学距離の目安は徒歩でおおむね2キロという基準を設けています。通学の安全確保については、関係機関との連携とともに、地域の状況に詳しい皆さんと相談しながら対策を進めていきます。

4 アンケートの主な意見・質問

- ・高坂小は小規模のよさを活かした学校運営がされている。
- ・クラス替えは必要だと思う。これから通う子どもの意見を聞いてほしい。
- ・なぜ高坂の地で統合案が出されないのか。
- ・新しく家が建てられている現状、高坂学区の子どもが増加した場合はどうするのか。
- ・クラス替えができるようになることでいろいろな子との交流ができるが、なじめないなどの問題も増えるのではないかと。
- ・通学時間の点が一番心配。学区の分け方について見直す必要があるのでは。
- ・相手校のしまだ小の意見も聞きたい。
- ・反対意見が多いなら統合は中止してほしい。
- ・高坂学区の保護者には一人ひとりに文書で進み具合をお知らせしてほしい。

※ アンケートの意見・質問に対する教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

5 今後の説明会等

2月以降、高坂小学校の保護者の皆様、未就学児の保護者の皆様それぞれを対象とした相談会の開催を予定しています。内容は、今回の説明・意見交換会と同じものです。詳細は、別途お知らせします。

高坂小学校の統合に向けた取り組みについては、市公式ウェブサイトにて随時情報提供します。

◆お問い合わせ先（事務局）

皆さまからのご意見やご質問を受け付けています。いただいたご意見・ご質問と教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトでも皆様にお知らせしていきます。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果

令和元年12月6日（金）及び7日（土）に高坂小学校体育館で高坂小学校の保護者及び地域の方を対象とした「高坂小学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合についての考え方に関すること

（1）小規模校のよさ・学校規模についての考え方

- ・小さい学校の方が子どものことをよく見てくれる。
- ・資料に小規模校のよさが書いてあるが、もっとあるのではないかと。
- ・小規模校の何が課題なのか疑問である。
- ・クラス替えができる方が望ましいという根拠のデータはあるのか。
- ・小規模校の問題についての回答の意味がよく分からなかった。全国的な動向は本当に正しいのか。
- ・市内の小学校で恐喝事件があったが、高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）ではあり得ない。マンモス校になったら、きめ細やかな対応はしてもらえない。
- ・いじめの問題は大規模校の問題である。問題のないところに労力を使う意味が分からない。財政的な問題か。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策

定され、同様の考え方が望ましいとされています。

- ・小規模校には、学校行事で活動の場を与えやすい、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすいといったよさがありますが、その一方で、人間関係の固定化が生じやすい、体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる、また、指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなるといった課題などがあります。
- ・3つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができるうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。
- ・教育委員会では、小規模校の課題を解決しつつ、高坂小のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていけることが必要と考えています。
- ・統合する際には、高坂小の子どもや保護者・地域等を理解した教育活動が引き継がれていくことができるよう教職員を配置します。

（２）統合のメリット

- ・統合すれば友達が増えるのは良い面である。
- ・人口の減少もふまえて、統合は必要。それぞれの家庭の事情はあるが、まずは子どもたち第一で考えてほしい。
- ・クラス替えは必要だと思う。これから通う子どもの意見を聞いてほしい。

教育委員会の考え方

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」によると、「心配はなかった」という子どもがいる一方、「学校が遠くなること」、「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができるのか」などの心配があったと回答した子どももあり、こうした子どもたちの気持ちを十分に踏まえることが重要と考えています。
- ・教育委員会では、子どものことを第一に考えながら、保護者や地域の皆様の声を丁寧にお聞きし、また学識経験者等による調査・審議の結果も踏まえながら、統合に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えています。
- ・新しい学校づくりにおいて、子どもの意見を取り入れることは大切であると考えています。校名・校章・校歌や通学時の安全確保など統合決定後の新しい学校づくりの段階（ステップ5）では、保護者・地域・学校と協議し、子どもたちが関わっていくことについて検討したいと考えています。

(3) 教員の負担等

- ・小規模校だと先生の負担が重くなるという説明が分かりにくかった。
- ・教員数が少ないと業務量が増えるのか、教員の意見も聞きたい。
- ・小規模のデメリットばかり挙げられているが、実際に学校生活において、保護者が頼りにしているのは教育委員会ではなく現場の先生なので、小規模校の先生の意見も聞いてみたい。
- ・統合すれば全体として教員は減ることになるが、減った教員の行き先はどうなるか。

教育委員会の考え方

- ・望ましい学校規模となった場合には、小規模校であった頃と比較すると教職員数が増えるため、例えば校務の事務分担はより多くの教職員で分担できるようになります。また、学年が複数学級となれば、学年ごとに準備が必要となる遠足や校外学習などの取り組みを担任同士で分担して計画・立案したり、実施したりすることができるようになります。
- ・運動会や学芸会・作品展などの学校全体の行事においては、より人数の多くなった教職員がそれぞれの役割を分担することで、小規模校の頃よりも負担軽減を図ることができるようになります。
- ・小規模校では、事故・ケガなど緊急時に対応することのできる教職員が少ない状況ですが、そうしたことも解消されます。
- ・統合したなごや小の例では、平成26年度に当時単学級であった旧江西小学校（以下「旧江西小」といいます。）、旧那古野小学校（以下「旧那古野小」といいます。）の教員は11人でしたが、この2校と旧幅下小学校（以下「旧幅下小」といいます。）が統合して開校したなごや小では、平成29年度の教員数が21人となりました。多くの教職員で協力分担しながら、教育活動・学校運営を行うことができるようになりました。
- ・小規模校の教職員からは、「子どもたちの人間関係の固定化や、教員一人あたりの校務の負担などを日々感じている」、「単学級の場合、運動会や様々な行事の時にクラスの中で常に半分に分かれていけないというのは、子どもたちにとってクラスで団結することがないので少しかわいそう」といった意見があがっています。
- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、学校現場の負担軽減に努めたいと考えています。

2 高坂小学校に関すること

- ・今の高坂小は他学年交流もあり子どもも気に入っているのも、統合と聞くと仕方ない気持ちと複雑な気持ちがある。
- ・高坂小は先生一人ひとりが児童の名前や兄弟関係も分かってくれており、本質を見抜いて接してくれている。
- ・高坂小は最初にできた学校であり、整備もきちんとできている。子どもによる消防団も表彰される

ほど優秀である。

- ・卒業生として母校がなくなるのは寂しい。

教育委員会の考え方

- ・高坂小は、昭和 44 年に開校してから保護者や地域の皆様に支えられた教育活動が進められており、「ペア学年活動」や「高坂水田」、「ふれあいあそび」といった取り組みが行われています。また、平成 29 年度には特に優良な少年消防クラブの総務大臣賞を受賞するなどの実績も納めています。
- ・統合については、これら高坂小のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境となるよう新しい学校づくりを進めてまいります。

3 統合（案）に関すること

（１）統合相手校・統合場所

- ・以前の計画では、相手校は相生小学校（以下「相生小」といいます。）だったのが、なぜ、しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）になったのか。地図で見れば、高坂小と相生小、その後にしまだ小ではないか。
- ・統合は仕方ないとしても、未来のビジョンが弱い。相生小や山根小学校も含めて考えてはどうか。
- ・現時点ではどう考えても高坂小の場所がベストである。
- ・しまだ小は死角が多く、日当たりも悪いと聞いた。高坂小の方が立地も日当たりも良い。
- ・しまだ小は高低差もあり民家も隣接している。使える面積がどれほどあるか。
- ・しまだ小の液状化の可能性についてはどう考えているか。
- ・しまだ小は上空を高圧電線が走っている。また、万が一、学校に隣接する鉄塔に子どもがよじ登ったりしたら危険ではないか。
- ・しまだ小の保護者・地域の方にとっても、校名、校歌、校章が変わり母校がなくなるという気持ちになる。
- ・なごや小では統合場所はどのように決めたのか。

教育委員会の考え方

- ・平成 22 年に策定した前の計画では、高坂小の統合相手校を小規模校であった相生小としていましたが、この計画は終了し、平成 31 年に「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を新たに策定しました。相生小は現在も小規模校ですが、学区の幼児人口が多く、今後、小規模校は解消する見込みです。
- ・平成 31 年に策定した新たな計画では、統合相手校を含む具体的なプランを学校ごとに作成するとしており、統合の組み合わせについては、「隣接する学校の統合を基本とする」、「原則として、同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の組み合わせとする」等としています。

- ・高坂小については、小規模校の状態が解消される見通しが無い中で、しまだ小の場所で、しまだ小と統合するとの統合（案）としましたが、その理由は、① 出身の幼稚園・保育園の状況、② 学校敷地の広さ、③ 通学距離が概ね2km以内ということから、決定したものです。
- ・なお、相生小を含む久方中学校ブロックにある三つの小学校を統合すると想定した場合、望ましい学校規模（12～24学級）を上回る児童数となる見込みです。
- ・統合を契機とした学校施設の整備については、しまだ小の敷地にある高低差、液状化の可能性や高圧電線の状況なども踏まえながら、その内容を検討します。
- ・なごや小では、三つの小学校の中で敷地面積の比較などにより、旧幅下小が統合場所として決定されました。

（２）今後の児童数

- ・新しく家が建てられている現状から、高坂学区の子どもが増加した場合はどうするのか。
- ・今後の人数の増減が分からないというのは、無責任だと思う。高坂荘のリニューアルについて、どうなるのか。
- ・市営高坂荘を整理して空き部屋を数えて何棟か建て替えられたり、土地が売られたりすれば子どもは増える。

教育委員会の考え方

- ・高坂小は小規模化の顕著な学校の一つであり、例えば各学年の児童数がすべて今の2倍になったとしても小規模校は解消されません。令和7年度まで見ても、クラス替えができる規模になると見込まれないため、教育委員会としては統合は必要であると考えています。
- ・高坂荘の建て替えについては、現在、具体的な計画はないと聞いています。
- ・こうした状況を踏まえると、高坂小が望ましい学校規模を確保するためには、統合に向けた取り組みを進めていく必要があると考えています。

（３）子どもへのケア

- ・子どもの不安にどうケアしてくれるか。
- ・高坂小としまだ小の児童数のアンバランスから、高坂小の子どもたちが委縮することはないか。どのように対応するか。
- ・しまだ小には通級指導教室がある。発達に課題を抱える子は、環境の変化に敏感である。しまだ第2保育園が売却されたときに、業者がたくさん入ってパニックを起こす子を見てきた。

教育委員会の考え方

- ・統合によって二つの学校が一つになること、また、これまで通い慣れた学校の場所が変わることについて、子どもたちの心理的な負担に配慮していくことは重要であると考えています。
- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」でも、子どもの中には「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができるのか」などの心配があったという子どももいましたので、こうした気持ちにも寄り添いながら、新たな人間関係がスムーズに構築でき、新しい学校に慣れ親しむことができるようにしていくことが大切だと考えています。
- ・統合に向けては、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るとともに、学校の中で子どもたちに一番身近な教職員同士での情報交換を進めるなど、子どもたちの実情を踏まえつつ対応していきたいと考えています。

(4) 通学距離・安全対策

- ・通学距離が長くなることが心配。統合は仕方ないが、一般的な通学距離に比べて長いのか短いのか知りたい。
- ・しまだ小へ行くには坂もあり、低学年には負担である。また、分団に遅刻した子にはどう対応するのか。
- ・通学時間の点が一番心配。学区の分け方について見直す必要があるのではないかと。
- ・しまだ小と統合すれば、久方3丁目からは小学1年生の足で1時間近くかかる。
- ・学校選択制を検討できないか。山根小学校や相生小は通学に1時間くらいかかるところもあるので、高坂小を選択できるようにしてはどうか。また、高島2丁目は平針南小学校を選択できるようにしてはどうか。
- ・私は高坂小5年生だが、夏の塾帰りにしまだ小の近くから高坂まで歩いた。非常に暑く大変な思いをした。知らないお婆さんが、「これでお茶でも買ったら」とお金をくれた。これだけの距離を毎日歩いて通うのはどうかと思う。熱中症が心配。
- ・通学安全や不審者対策はどう考えているか。
- ・交通安全が心配である（特に大根の交差点）。
- ・帰り道が一人だと不安である。信号がないところで車は止まってくれないし、安全な道だと遠回りになってしまう。
- ・種々意見があると思うが、通学する子どもたちのことを第一に考えてほしい。
- ・保護者と話し合うと言っていたが、在校生の意見も取り入れた方がいいと思う。
- ・スクールバスを検討してはどうか。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、小学校の通学距離は概ね2kmを目安としています。なごや小では、統合後の通学距離は最大で1.6km、子どもの足で40分かかるようになったと聞いています。
- ・なごや小のアンケートでは、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもの中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・通学距離については、市内のほとんどの小学校において、教育委員会が目安としている概ね2kmの範囲内に収まっています。なお、通学距離の目安を超える場合は、子どもたちの安全面や負担面の取り組みが可能であれば、柔軟な対応を検討したいと考えています。
- ・熱中症対策は、学校に帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参などについて学校とともに検討したいと考えています。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携しながら、また保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに子どものことを第一に考えた安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、① 狭い歩道へのガードパイプの設置、② 横断歩道の設置、③ 注意表示の設置、④ 歩行者先出信号の設置、⑤ 自転車専用レーンの設置、⑥ 青信号の時間延長、⑦ 道路へのカラー舗装、⑧ 通学練習会の実施を行いました。

4 取り組みの進め方等に関すること

(1) 取り組みの進め方

- ・国の方針もあり、一定程度の学級規模が必要だということは理解できた。但し、小規模でもメリット、デメリットがあるため、説明資料を含め「統合ありき」に見えてしまうことが、住民感情としてはあると感じた。
- ・今後どのように統合していくのか流れを知りたい。
- ・今後の進め方として、保護者対象の説明会の開催やアンケートを取る考えはあるか。また、高坂・しまだ合同の説明会はあるか。
- ・ステップ1ということは案の段階。これから決めるという前提のはずなのにステップ3、4に進むと聞こえる。これから決めるのか、ステップ3、4へ進む前提なのかはっきりしてほしい。
- ・統合後のビジョンが具体的になってからでないと賛成、反対が決められない。今日の説明会で出た意見をふまえた内容で、決定前に説明会、話し合いの場を設けていただきたい。できたら少なくとも保護者、児童には賛否を聞いて、統合決定の材料にしてほしい。
- ・統合のメリット、デメリットが見えてこない。
- ・賛成でも反対でもないが、本日の資料は数字ばかりで子どもや親への負担が書かれていないと思った。

- ・地元の人間だけでは検討するにも視野が狭いと思う。より専門的見地から議論すべく、早期に審議会に諮問できるよう進めてほしい。
- ・個人的には必ずしも反対ではないが、理解のできる中身ではなかった。財政など具体的に色々ディスカッションをしたかった。
- ・少子化により学校の改築等にかかる費用が問題となっていることについても話があるとよかった。
- ・統合による財政的な削減効果を次の子どもたちに回すといった説明をしてはどうか。統合でお金はいくら浮くのか。
- ・相手校のしまだ小の意見も聞きたい。

教育委員会の考え方

- ・今般の説明・意見交換会は、統合に向けた取り組みの最初の段階（ステップ1）に位置するものです。現時点で統合に向けた具体的なスケジュールが決まっているわけではありませんが、保護者・地域の皆様へ統合について教育委員会の考え方を広くお知らせするため、開催いたしました。
- ・また、教育委員会では、統合を進めていく際には、中立性や客観性の中で専門的立場からの見識や判断が必要と考えています。今後、学識経験者等により構成する名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会で具体的な取り組み内容の調査・審議を行う予定です（ステップ2）。
- ・保護者・地域の皆様には、審議会の答申を踏まえ、統合スケジュールを含む具体的な取り組み内容を改めてお示しし、丁寧な協議（ステップ3）を行った上で統合の決定をしたいと考えています（ステップ4）。
- ・統合について子どもたちがどのようにとらえているのかの参考としていただけるよう、説明・意見交換会ではなごや小の「学校統合に関するアンケート」の実施結果を配布いたしました。
- ・学校施設は、児童・生徒数が急増した1960年代後半から1980年代前半に集中して建築されており、2017年度には約半数が、これまで改築の目安としていた築40年以上を経過しており、老朽化が進んでいるとともに、新たな社会的ニーズへの対応も求められています。
- ・統合を契機に必要な施設整備を行うことにより、施設面での教育環境の充実にも取り組みます。
- ・しまだ小で開催した説明・意見交換会の内容についても、後日、名古屋市公式ウェブサイトで公開する予定です。

（2）保護者・住民への周知方法

- ・統合に反対な訳ではないですが、事前に就学者又は末就学者の保護者への連絡はきちんとしていたきたい。この説明会も人から聞いている。回覧板でお知らせしたと聞いたが私の住んでいる所は学区が複雑でお知らせが回らない。是非個別にお願いしたい。
- ・この会の案内はなかなか全ての人に行き届いてないと思うので、意見・質問の回答の「おたより」はしっかりと全ての人に届くようにしてほしい。
- ・ホームページだけでのお知らせでは知らない人多すぎる。

- ・自治会に入っていないとチラシが来ない。今日の話はきちんと返してほしい。
- ・参加者は今日から統合の検討が始まると思って来ていると思うが、統合が決まっているかのように説明している。

教育委員会の考え方

- ・今般の説明・意見交換会のご案内は、小学校を通じ保護者の皆様に配布させていただいたほか、近隣の幼稚園・保育園に対し、高坂学区にお住いの保護者の方に配布していただくよう依頼しました。また学区での地域回覧をお願いするとともに、名古屋市公式ウェブサイトにも情報を掲載しました。
- ・今後も、名古屋市公式ウェブサイトでの随時の情報更新など、できるだけ多くの皆様に情報提供できるよう努めます。

5 地域に関すること

- ・学校は街のシンボルである。
- ・小学校がなくなるのは、地域を置き去りにしていると感じるがどうか。
- ・小学校がなくなると、街の魅力がなくなってしまう。
- ・統合は基本的に学校がなくなる。再考してほしい。
- ・高坂町の過疎化が進み、地域が衰退してしまうのか。
- ・小学校がなくなると、なおさら子どもが減ることにならないか。
- ・統合が決まったら引っ越してしまう人もいるのではないか。
- ・統合より子どもたちが集まる仕組みづくりが先ではないか。

教育委員会の考え方

- ・学校は教育の場であるだけでなく、防災や地域交流の場である等など、地域コミュニティの核となっている点に配慮しながら、子どものことを第一に考え、望ましい学校規模の確保に向けた取り組みを進めることが重要と考えています。
- ・今般の説明・意見交換会で提示した統合（案）のように高坂小としまだ小の統合が決定することになれば、二つの学区（地域）の子どもたちが通う新しい小学校が現在のしまだ小の場所に開校することになります。統合は、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するという考え方ではなく、新しい学校を開設するという考え方で、それぞれの学校の特色やよさを継承・発展させることが重要と考えています。
- ・高坂小、しまだ小にはそれぞれ長い歴史や伝統があります。これまでの統合校には、記念となる物品や写真を納めた「メモリアルコーナー」を設置し、各校の歴史や伝統を統合後の学校で大切に受け継いでいます。

6 跡地に関すること

- ・跡地はどうなるのか。
- ・跡地の活用事例について具体的に知りたい。これまでに統合した学校・学区名を知りたい。
- ・防災の機能が残るという点については安心した。
- ・高坂荘の住民としては、高坂小に避難所があると安心できる。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。
- ・これまでの学校跡地は、西区の旧江西小（インターナショナルスクール）、旧那古野小（会議室、シェアオフィス、イベントスペース等）、中村区の旧新明小学校（コミュニティセンター）、旧六反小学校（私立中学校）、旧本陣小学校（中村区役所等複合庁舎（予定））、旧亀島小学校（民間保育園及び公園、地域住民利用施設（予定）、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等）となっています。
- ・統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。

7 その他

（１）当日資料

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」中「保護者のアンケート結果」の「4 新校舎に移動する前と後で、学校生活や友達関係などにおいて、お子様に何か変化はみられましたか」の結果として、「変化がみられた」と回答した者が 116 人となっているが、どのような変化が見られたのかわからない。せめてプラスの変化なのか、マイナスの変化なのかを把握すべきではないか。
- ・なごや小のアンケートではよいことばかり書いてあるので、具体的に困ったことなど良くないことも知りたかった。

教育委員会の考え方

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」において、「新校舎に移動する前と後で、子どもに変化が見られた」と回答した保護者の具体的な回答例は、次のとおりです。

「いじめや無視されていたことがなくなった。クラスが今まで一つしかなかったので、逃げ場がなかった。今まで狭い世界の中で頑張っていたんだと痛感した。自分に合うお友達ができて楽しそうにしている。」

「全校では少人数 1 クラスでトラブルが多いクラスだったため、逃げ場もなく閉塞感があったが、複数クラスになり人数も増えたことで性格による住み分けもでき、落ち着いて生活できるようになった。荒れているクラスの子には統合は救いであった。」

「広い範囲のお友達ができ、よい刺激を受けるようになった。」

「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった。」

「トイレを我慢することがなくなった。」

「新しいお友達にはまだまだ気を遣う気苦労のようなものを感じる。」

「新しい人間関係にストレスを感じて居心地が悪そうだった。」

- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」で児童が困ったこととして、「学級で意見がまとまりにくくなった」、「先生の名前を覚えるのが大変になった」、「手を挙げてもあたりにくくなった」などの回答がありました。

(2) 学童保育等

- ・学童保育はどうなるか。
- ・バス停の名前を変更するのに時間もかかるし、そのための費用負担も考えているか。

教育委員会の考え方

- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。

「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」の開催結果だより

発行：令和2年2月

日時：令和元年12月13日（金）午後7時～
令和元年12月14日（土）午前10時～
会場：しまだ小学校体育館

1 開催結果

令和元年12月13日（金）及び14日（土）にしまだ小学校体育館で、しまだ小学校の保護者及び地域の方を対象とした「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」を行いました。2日間で、延べ74人の方にご参加をいただきました。

説明・意見交換会で配布した資料及び当日の意見・質問と教育委員会の考え方の詳細については、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

<http://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000121769.html>



区分	保護者	地域住民	合計
12月13日	31人	9人	40人
12月14日	24人	10人	34人
累計	55人	19人	74人

2 会場での主な意見・質問

- ・高坂小と相生小の統合の話はどうなったのか。なぜしまだ小になったのか。
- ・しまだ小にとっての統合のメリットを教えてください。
- ・最短のスケジュールだといつの統合か。また、説明会は何回あるのか。
- ・高坂小での説明会でどんな意見が出たのか知りたい。
- ・建て替えか改修かは決まっていないとの説明だが、考えられる工事内容や工事期間、安全対策、プレハブの教育環境などについて知りたい。

3 教育委員会の考え方

- ・未就学児において高坂としまだのつながりが深いこと、しまだ小の敷地が一番広いこと、通学距離として想定する概ね2km以内にあることから、しまだ小の場所で、高坂小としまだ小との統合案を作成しました。
- ・統合により、より多くの児童が多く教職員の中でふれあい、育つ環境となります。
- ・統合を契機に、学校施設の老朽化を早期に改善し、安心・安全・快適な施設環境の確保を進めます。
- ・スケジュールについては現段階では決まっていますが、整備内容とともに具体的に説明できる段階となったところでお示ししたいと考えています。
- ・説明・意見交換会の内容は、保護者・地域の皆様へお知らせします。また、個別に

意見を聞く場の設定についても検討します。

- ・高坂小で開催した説明・意見交換会では「きめ細やかな教育をしているので高坂小を残してほしい」「統合するなら高坂小の場所で考えてほしい」「市営住宅の建て替えがあれば児童数が増えるのではないか」「通学距離が長くなるので通学安全や熱中症が心配」といった意見がありました。
- ・整備工事については、工事期間中の安全確保を第一に、その間の子どもたちの学校生活への負担を考えながら検討していきます。

4 アンケートの主な意見・質問

- ・高坂小の父兄の方で人数が少なくてさみしいという話も聞いたことがある。
- ・デメリットよりメリットの方が多いはずだから、統合すれば良い。
- ・経費減少になるので良いと思う。
- ・子どもの数を考えると統合はやむを得ない。
- ・1クラスの人数が増えれば先生の目は行き届かなくなる。
- ・今のところ反対。メリットが見えない。
- ・なぜ相生小ではなくしまだ小なのか、理由が明確でないように思われた。
- ・この際、施設の整備をしっかりしてほしい。
- ・校舎がそのまま高坂小の子が来る場合、肩身の狭い思いをするのではないか。
- ・知らない子どもたちが同じ学校に通うことになれば、不安や問題もある。心のケアを手厚くお願いしたい。
- ・高坂小の低学年の子がしまだ小に通うのは大変だと思う。
- ・通学の安全はどうなるか。
- ・もう少し意見を聞く時間がほしかった。切り上げが早い。
- ・説明がすべてあいまい。何のための説明会かわからない。
- ・規模がしまだ小のほうが大きいので、学校名、校歌を変える必要があるのか疑問。
- ・高坂小での説明会の様子を知りたい。
- ・もう少し小さい単位で説明会を行ってほしい。
- ・反対が多かった場合はどうなるか。

※ アンケートの意見・質問に対する教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトからご覧いただけます。

◆お問い合わせ先（事務局）

皆さまからのご意見やご質問を受け付けています。いただいたご意見・ご質問と教育委員会の考え方は、市公式ウェブサイトでも皆様にお知らせしていきます。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

「しまだ小学校における学校の統合に関する 説明・意見交換会」の開催結果

令和元年12月13日（金）及び14日（土）にしまだ小学校体育館でしまだ小学校の保護者及び地域の方を対象とした「しまだ小学校における学校の統合に関する説明・意見交換会」を開催しました。

当日、会場で発言していただいたご意見、アンケートに記載していただいたご意見とそれに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、ご意見の内容について、趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

◆お問い合わせ先

皆さまからのご意見やご質問については、EメールまたはFAXで受け付けています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

Eメール：a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

FAX：052-972-4176 TEL：052-972-4092

1 統合についての考え方に関すること

（1）統合の必要性

- ・統合は人数も増えて教育上、大賛成。高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）の父兄の方で、人数が少なくてさみしいという話も聞いたことがある。小規模学校のよさもあるかもしれないが、厳しい社会で過ごすには、やはり大人数がよい。
- ・経費減少になるので良いと思う。
- ・デメリットよりメリットの方が多くはずだから、統合すれば良い。あれこれ文句を言いすぎている気がする。
- ・子どもの数を考えると統合はやむを得ないと思う。
- ・しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）はクラス替えができていた学校であるが、メリットは何か。
- ・学級数が増えない学年もあり、工事期間中の子どもたちへの影響もある。しまだ小にとっての統合のメリットを教えてください。
- ・今のところ反対。メリットが見えない。
- ・1クラスの人数が増えれば先生の目は行き届かなくなるし、ぎゅうぎゅう詰め状態で授業を受けなければいけない。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えており、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えています。子どもたちのことを第一に考えながら、統合における子どもたちへの心のケアなど十分に配慮し、取り組みを進めたいと考えています。
- ・しまだ小は、現在、各学年クラス替えのできる望ましい学校規模（12～24学級）の小学校ですが、統合すると、望ましい学校規模を確保しつつ、児童数が増え、学年によっては学級数が増え、教職員数も増える見込みです。
- ・より多くの児童がより多くの教職員の中でふれあい、育つことのできる環境を確保するため、統合を契機に、学校施設の老朽化を早期に改善します。
- ・工事期間中の安全確保と子どもたちの学校生活への影響を十分に考慮しながら、安心・安全・快適な施設環境の確保を進めます。

（２）教員の負担等

- ・先生方への対応はどうなるのか。
- ・統合した結果、児童・教師間の関係は手薄になる気がする。
- ・統合になったら、先生の人数が余ると思うが、部活動の充実など行き届くとうれしい。

教育委員会の考え方

- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、人的配置を含め学校現場の負担軽減に努めていきます。

２ 統合（案）に関すること

（１）統合相手校

- ・高坂小と相生小学校（以下「相生小」といいます。）の統合の話はどうなったのか。今回、なぜしまだ小になったのか。
- ・10年ぐらい前から相生小・高坂小の統合の話があったが、反対意見が多くダメであったので、しまだ小との統合になったように思う。
- ・なぜ、相生小ではなくしまだ小なのか理由が明確ではないように思われた。しまだ小は今後児童数が増えていくわけでないことは分かるが、相生小の児童数は今後増加した後、減少していく可能性も考えられる。相生小としまだ小の状況は同じではないか。

教育委員会の考え方

- ・高坂小と相生小の統合の計画は、平成 22 年に策定した旧計画に基づいたものです。旧計画では統合場所や統合時期を決めずに、それぞれの学区・学校の代表者で協議して教育委員会に要望するという形をとっていましたが、小学校への思いもあって時間がかかり、旧計画で統合が実現できた事例はなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）のみでした。そのため、平成 31 年に新たに計画を策定し、教育委員会が主体となって進めることとしました。
- ・新計画では、統合相手校を含む具体的なプランを学校ごとに作成するとしており、統合の組み合わせについては、「隣接する学校の統合を基本とする」、「原則として、同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の組み合わせとする」等としています。
- ・高坂小については、小規模校の状態が解消される見通しが無い中で、しまだ小の場所で、しまだ小との統合案としました。その理由は、① 出身の幼稚園・保育園の状況、② 学校敷地の広さ、③ 通学距離が概ね 2 km 以内、です。

（２）統合場所・施設整備

- ・校舎整備に関して要望がある。次の点を改善してほしい。① 校舎が南側にあり、運動場の日当たりが悪い。② 段差が多い。③ 学童保育が敷地内にある。④ 送電線が走っており、電磁波が出ている。
- ・しまだ小は敷地が 3 段になっている。せめて 2 段にしてほしい。
- ・この際、設備の整備をしっかりといただきたい。
- ・校舎整備の際には、学年で同じフロアになるような配置をお願いしたい。
- ・これを機にユニバーサルデザインにすると良い。
- ・実現するなら校舎の建て替えとともにプールを室内にしてほしい。
- ・校舎建て替えの時、仮校舎はどうするのか。
- ・施設の改築・改修をメリットにあげていたが、それは統合がない場合は全くされないのか。

教育委員会の考え方

- ・統合を契機に必要な施設整備を行うことにより、施設面での充実に取り組むことを考えています。その際には、しまだ小の敷地にある高低差、送電線の状況なども踏まえながら検討したいと考えています。
- ・整備工事については、工事期間中の安全確保を第一に、その間子どもたちの学校生活への負担を考えながら検討していきます。
- ・工事期間中の教室等の確保を含む具体的な整備プランについては、準備ができましたら改めて保護者・地域の皆様に説明したいと考えています。
- ・市では、個々の建物寿命を勘案しつつ、原則として概ね築 80 年程度まで校舎を使用するという考え方ですが、統合を契機に子どもたちにとって安心・安全・快適な施設環境が確保できるよう、

学校施設の改善を図りたいと考えています。

(3) 子どもへのケア

- ・校舎がそのまま高坂小の子が来る場合、高坂小の子が肩身の狭い思いをするのではないかと。
- ・知らない子どもたちが同じ学校に通うことになれば、不安や問題もある。心のケアを手厚くお願いしたい。

教育委員会の考え方

- ・子どもたちが新たな人間関係をスムーズに構築できるよう配慮していくことは、大変重要と考えています。
- ・統合に向けては、学校の中で子どもにとって一番身近である教職員同士で情報交換を進めるとともに、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るなど、子どもの実情を踏まえながら準備していきたいと考えています。

(4) 通学距離・安全対策

- ・高坂小の低学年の子がしまだ小に通うのは大変だと思う。
- ・久方からだとしまだ小は遠い。
- ・夏は熱中症が心配。
- ・通学の安全はどうなるか。
- ・しまだ小に通う高島二丁目の児童がしまだ小まで何 km 歩いているのかを周知すれば、高坂小の方も現実が分かるのではないかと。
- ・学区の範囲が変な形で端から端の距離が長く、小学校低学年の子が学区内を歩き回る範囲ではないと思う。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、小学校の通学距離は概ね2kmを目安としています。なごや小のアンケートでは当初、学校が遠くなることを心配していた子どもも中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・熱中症対策については、帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参など学校とともに検討していきたいと考えています。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携し、保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、① 狭い歩道へのガードパイプの設置、② 横断歩道の設置、③ 注意表示の設置、④ 歩行者先出信号の設置、⑤ 自転車専用レーンの設置、⑥ 青信号の時間延長、⑦ 道路へのカ

3 取り組みの進め方等に関すること

(1) 取り組みの進め方

- ・ 具体的な生徒数、学級数、面積等が載っていて分かりやすかった。
- ・ 説明会の開催ありがとうございます。
- ・ とても良い会となりました。参加して良かったです。
- ・ 統合するのであれば早く行ってほしい。
- ・ 今日の意見交換会で知ったことばかりであった。
- ・ 統合すると聞きびっくりした。まだまだ不安な所も多いので、色々と検討していただきたい。
- ・ 今回の説明・意見交換会はステップ1ということだが、統合ありきでなくしっかり協議してほしい。
- ・ 両学区の地域住民が納得いくまで話し合いをした方がいいと思う。
- ・ 正直、決定事項だと思って来たので何を質問したらいいのかも分からず、うなずくだけだった。
- ・ もう少し意見を聞く時間がほしかった。切り上げが早い。
- ・ 全体に明確な答えがなかったので、もやもやがあるままである。
- ・ 説明がすべてあいまい。何のための説明会か分からない。教育委員会の方の対応が悪すぎる。一人ひとりの意見を聞いてくれないなら何の意味もない。これでは誰も納得しない。
- ・ 最短のスケジュールだといつの統合か。また、説明会は何回あるのか。
- ・ 統合するなら何年後になるか、具体的な年度を知りたい。
- ・ 子どもの在学中には統合はされそうでなく、まだまだ分からない。
- ・ 建て替えか改修かは決まっていないとの説明だが、考えられる工事内容や工事期間、安全対策、プレハブの教育環境などについて知りたい。
- ・ しまだ小は現状も見込みも小規模ではない。統合でなく吸収でいいのではないか。
- ・ しまだ小 399 人、高坂小 107 人でしまだ小に通うとあったが、規模がしまだ小の方が大きいので、学校名、校歌を変える必要があるのか疑問。
- ・ しまだ小の校名、校歌がなくなるのは寂しい。新しい学校をつくるとはどういう考え方か。
- ・ PTAはどうなるか。
- ・ 高坂小での説明会でどんな意見が出たのか知りたい。
- ・ 反対が多かった場合はどうなるか。

教育委員会の考え方

- ・ 今回の説明・意見交換会は、統合に向けた取り組みの最初の段階で実施したものです。現時点で、統合に向けた校舎等の整備内容や具体的なスケジュールが決まっているわけではありませんが、保護者・地域の皆様へ統合について教育委員会の考え方を広くお知らせするため、開催しました。

- ・保護者、地域の皆様には、校舎等の整備内容やスケジュール等を含む具体的なプランが示されるようになった段階で、改めて説明会を開催したいと考えています。
- ・統合については、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するのではなく、新たに学校を開設するという考え方で、両校の特色やよさを継承・発展させるような学校づくりに取り組みたいと考えています。
- ・学校の統合によりPTAも1つになります。両校のPTAそれぞれの活動を継承・発展させていけるよう協議していきたいと考えています。
- ・高坂小で開催した説明・意見交換会では、「きめ細やかな教育をしているので高坂小を残してほしい」、「市営住宅の建て替えがあれば児童数が増えるのではないかな」、「通学距離が長くなるので通学安全や熱中症が心配」、「子どもの心のケアをしっかりとしてほしい」、「統合するなら高坂小の場所で考えてほしい」、「全体的なスケジュールを教えてください」といった意見がありました。高坂小で開催した説明・意見交換会の内容についても、市公式ウェブサイトに掲載します。
- ・統合に向けては、小規模校の課題、取り組みの必要性や効果など保護者・地域の皆様に丁寧に説明し、ご心配・ご不安が解消されるよう努めながら取り組んでいきたいと考えています。

(2) 保護者・住民への周知方法

- ・休みの関係上、説明会開催日2ヶ月前くらいには教えてほしい。
- ・事前の案内では、統合案ぐらいの詳細を載せてもらいたかった。
- ・進め方として、今日の会に参加できなかった人など、できるだけ多くの人の意見を聞いてほしい。
- ・今日来ていない人の声もしっかり聞いてほしい。また、学区単位でなくもっと小さい単位での説明会も実施してほしい。
- ・今回の意見交換はどのように反映されるのか。どこかで発表されるのか。

教育委員会の考え方

- ・今回はステップ1ということで説明会を開催しました。おたよりを周知することで、多くの方に知っていただき、さらにご意見をいただきながら進めたいと考えています。
- ・おたよりを始め統合に向けた様々なお知らせは、小学校を通じた保護者への配布、学区での地域回覧とともに、市公式ウェブサイトへの掲載により情報提供していきます。
- ・説明会の開催など、さらに広くお知らせする機会の設定についても検討します。

4 地域に関すること

- ・地域活動はどうなるか。学区も統合されるのか。
- ・学区はどうなるか知りたい。学区も統合するのかしないのか。

- ・行政面で考えた時、2つの校区では面積がかなり広くなる。きめ細かい対応が難しいと思うので、どのような考え方をしていくのかも含めて考えてほしい。

教育委員会の考え方

- ・過去の3ケースの統合事例ではいずれも、学区は従前の単位（組織）のまま活動しています。
- ・統合に向けては、区役所等にも随時、情報提供を行い、連携して進めていきます。

5 学童保育

- ・学童保育に関わっている。学童は学校の敷地内にあるが、校舎整備の際にどうなるか知りたい。移転が必要な場合、担当部署と調整して移転先も探してほしい。また、学童の保護者にもきちんと説明してほしい。
- ・学童保育はどうなるのか。
- ・「学童は所管ではない」と回答されていたが、ぜひとも存続の即答がいただきたかった。トワイライトと学童は全く別である。開校以来ある学校内の学童を大事に思うOB 父母が現父母、これから続く働く父母の大変さを思うとぜひ残してほしい。

教育委員会の考え方

- ・学童保育については教育委員会の所管ではありませんが、情報交換を含め関係部署と連携し、必要な調整をしていきます。
- ・学童保育については、学校統合後も現在と同じ単位での活動が可能であることを関係部署に確認しています。

高坂小学校の統合に関するご質問と 教育委員会の考え方について

1 統合に向けた進め方についてのご質問

Q1 高坂小学校の統合には、保護者の間にも反対する意見があります。そのような中で統合を進めるのですか。

A1 高坂小学校の統合については、保護者の方などから、さまざまなご意見をいただいています。「高坂小学校は、学校全体で仲良しの世界一最高な小学校です。高坂小学校の存続をよろしくお願いします。」というご意見もいただいていますし、「未就学児の保護者の中には、しまだ小学校での統合に賛成の意見がたくさんあります。ぜひ統合を進めてください。」というご意見もいただいています。

これまで、学校統合は、関係する学校・学区の保護者や地域の皆さまによる協議によって合意形成を図るという形で取り組まれてきました。しかしながら、保護者、地域の皆さまの中にさまざまなご意見があることもあって、こうした「協議による合意形成」は進んできませんでした。そこで、本市では、平成31年3月に「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」（以下「計画」といいます。）を策定し、望ましい学校規模の確保に向けた取り組みは、子どものことを第一に考え、教育委員会が主体的に進めることといたしました。

小規模校には「学校行事で、すべての児童・生徒に活動の場を与えやすい」、「一人ひとりの児童・生徒にきめの細かい指導がしやすい」という面はありますが、その一方で「日々の学校生活の中で、様々な考え方や価値観に出会い、社会性や協調性、コミュニケーション能力を伸ばす機会が限られる」、「子どもたちの実態に応じたクラス替えが困難であるため、人間関係の固定化や男女比の偏りが生じやすい」といった教育面の課題、また配置される教職員数が少ないことによる学校運営面での課題があります。計画では、小規模校の課題の解決を図りつつ、小規模校のよさを残しながら、児童・生徒にとってよりよい教育環境にするため、すべての学年でクラス替えのできる学校規模を確保する取り組みを進めることとしています。

統合を進めるにあたっては、統合の対象となる学校とその相手校、統合場所な

どの決定に、中立性や客観性が必要になると考えています。計画では、専門的な立場の方の見識や判断を反映させるため、学識経験者等により構成される審議会の中で、統合のプランについて審議を行うこととしています。

この資料の中にありますように、高坂小学校の統合に向けては、さまざまなご意見をいただいています。教育委員会では、皆さまからのご意見を大切にし、学識経験者等による審議も踏まえながら、子どもたちによりよい教育環境となるよう検討を進めていきたいと考えています。

Q2 統合に向けて、子どもの声を聴いて進めてほしいと思いますが、そのような機会はありますか。

A2 現在は、まだ統合を決定する前の段階です。新しい学校をどのような学校にしていくかという具体的な検討も始まっていませんし、統合のスケジュールも決まっています。

こうした時期に、子どもたちに「学校統合についての意見」を尋ねたとしても、それぞれ自分なりのイメージの中で、学校統合や統合して新しく開校する学校について「不安」や「期待」を述べることになってしまうのではないかと考えています。

教育委員会では、学校の統合は、子どもたちのことを第一に考えて取り組むことが大切であり、子どもたちの心のケアに適切に配慮していくことが重要と考えています。いたずらに不安や期待などを抱かせるようなことはすべきでないと考えています。

こうしたことから、学校統合に向けては、まずは保護者を始めとする皆さまからご意見をお伺いするとともに、学識経験者等による専門的立場からの見識や判断も得ながら、検討を進めたいと考えています。そして、統合の決定後、統合校の開校に向けた協議をする段階（ステップ5）で、子どもたちから新しく開校する学校についてのアイデアを募集していきたいと考えています。

例えば、新しく開校する学校に設置する図書室について、「魅力的で使いやすく、低学年から高学年までが活発に交流できるような場所にしたい」というような夢や希望を、子どもから積極的に意見募集したいと思います。

Q3 これから、統合に向けてどのように進められていくのですか。

A3 本資料では、高坂小学校の統合について教育委員会の考え方をお示ししていま

すが、統合の決定に向けては、中立性や客観性の中で、専門的立場からの見識や判断等が必要だと考えています。そのため、学識経験者等により構成する審議会を開催し、統合についての具体的な取り組み内容の調査・審議を行うこととしています（ステップ2）。この審議会での審議については、名古屋市公式ウェブサイトにおいて、広くお知らせしていく予定です。

審議会での審議後、保護者・地域の皆さまには、統合に向けた具体的なスケジュール、新しい学校の整備計画を含めた具体的な統合プランの全体像をお示しし、説明・協議を行いたいと考えています（ステップ3）。その後、統合を決定します（ステップ4）。統合決定後は、関係する学校の保護者・地域の皆さまと、統合校の開校に向けた新しい学校づくり（校名・校章・校歌、施設整備、通学安全等）についての協議を進めることとしています（ステップ5）。

2 小規模校のよさや高坂小学校の特色がある中で統合することについてのご質問

Q1-1 高坂小学校は、少人数で理想的な教育ができています。大人の目も届きやすく、きめ細かなケアがされています。学年をこえて子どもたちの仲も良く、少人数でのデメリットは感じません。

Q1-2 小規模校の課題がよくわかりません。小規模校は人間関係の課題があると思いますが、それは、教師の力量次第で対応できるのではないですか。

A 1 小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要です。子どもたちには、多くの仲間とともに、また多くの教職員との出会いの中で、より多様な経験をする機会が与えられることが大切だと考えています。

望ましい学校規模（12～24学級）の小学校では、小規模校よりも教員の配置人数が多くなりますので、校務や行事の分担を適切に行うことができ、教員が子どもと向き合う時間をより多く生み出せるようになります。また、より多くの教員によって、子どもの評価を多面的に行えるようになります。

高坂小学校では、小規模校としてそのよさを活かしながら、教育活動が行われています。こうした小規模校のよさも残しながら統合の取り組みを進めることで、

子どもたちにとってよりよい教育環境を目指したいと考えています。

Q2 様々な研究論文を調べましたが、少人数のほうが明らかに学習効果は高くなっています。統合すれば子どもの学力が上がるというような学術的なデータがあるのですか。

A2 小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。

統合校の子どもたちの様子について、統合後になごや小学校（西区）の教員に聞いたところ、日々の授業において「話し合いが活発になり、考えが深まるようになった」、「子どもが意欲を持って取り組むようになった」といった変化を感じているとの声がありました。体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習・グループ学習などの充実は、望ましい学校規模を確保することによって実現したいと教育委員会が考える学校のビジョンの一つです。

また、望ましい学級規模にすることで、学級の枠を越えた習熟度別指導や教員の学年内の役割分担による専科指導等の多様な指導形態もできるようになると考えています。

Q3-1 高坂小学校では、特別支援学級の子どもが通常の学級の子どもと一緒に勉強したり、行事に参加したりすることができ、交流の機会がたくさんあります。

Q3-2 発達障害がある子どもであっても、高坂の子はみんな本当に優しく、うまくやっています。

A3 小規模校では、「学校行事ですべての児童・生徒に活動の場を与えやすい」というよさがあります。高坂小学校では、こうしたよさを活かした教育活動が行われていると考えています。

本市では、障害のない子どもと障害のある子どもとの交流及び共同学習を進めるなど、インクルーシブ教育システム構築の推進に取り組んでいます。しまだ小学校にも、特別支援学級が設置されています。統合して新しく開校する学校での教育活動については、子どもたち全体にとって、よりよいものとなるよう検討し、進めていきたいと考えています。

Q4 高坂小学校では異学年交流が行われており、子どもたちは名前を覚えてもらえて、自己肯定感が高まっています。

A4 小規模校では、異学年の交流が図りやすいということがあります。高坂小学校でも「ペア学年活動」が行われており、特色の一つであると考えています。異学年交流については、しまだ小学校でも取り組まれていますので、統合校での教育活動は、両校それぞれの取り組みを持ち寄り、それぞれのよさを継承・発展させていけるよう検討していきたいと考えています。

Q5 統合すると、地域とのかかわりがなくなってしまうませんか。高坂水田の管理は、子どもから大人、地域の人、先生までかかわっていて、とても素晴らしいです。統合すると、そうしたものがなくなってしまうのではないですか。

A5 高坂小学校は、昭和 44 年に開校して以降、保護者や地域の皆さまに支えられた教育活動が進められており、「高坂水田」、「ふれあいあそび」といった取り組みも行われています。統合校での教育活動は、こうした取り組みを含め、両校それぞれのよさを継承・発展させていけるよう検討していきたいと考えています。

Q6 統合ではなく、中学校区内にある小学校間で合同授業をすることはできませんか。

A6 小規模校の課題として、「運動会・文化祭・遠足等の集団活動・行事の教育効果が下がること」や、「体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じること」などがあります。校地の離れた学校間での合同授業では、こうした課題への対応は困難だと考えています。

3 統合の相手校、統合場所に関する考え方についてのご質問

Q1 以前、高坂小学校は相生小学校と統合するとの話を聞いていましたが、なぜ、しまだ小学校との統合というプランになったのですか。

A1 小規模校のさまざまな課題を解決し、子どもたちのよりよい教育環境を整備するため、教育委員会では、平成 22 年 9 月に「小規模校対策に関する実施計画」

(旧計画)を策定し、6 学年すべてが単学級でその状況が継続する見込みのある学校を中心に統合を進めることとしていました。旧計画では、高坂小学校も対象校の一つとなっており、同一中学校ブロック内で隣接する(当時)小規模校であった相生小学校を統合相手校としていました。

教育委員会では、旧計画の取り組みを全市的に進めてきましたが、3 つの小規模校が統合して開校した「なごや小学校」の他には、統合の取り組みは進みませんでした。旧計画は、平成 31 年 3 月に策定された「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」に引き継がれました。「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」では、統合相手校の校名を掲載せず、対象校ごとに検討することとしています。

6 学年すべてが単学級である高坂小学校は、同一中学校区にある 2 つの小学校(しまだ小学校、相生小学校)と隣接しています。相生小学校は、現在は小規模校ですが、学区の幼児人口が多く、今後、小規模校は解消する見込みとなっています。したがって、しまだ小学校、相生小学校の両校とも、高坂小学校の統合相手校となりうる小学校となります。

そうした中で高坂小学校は、しまだ小学校の場所で、しまだ小学校と統合するとの統合(案)としています。その理由は、①出身の幼稚園・保育園の状況、②学校敷地の広さ、③通学距離が概ね 2 km 以内となるということからです。

Q2 久方中学校ブロックに小学校が 3 つありますので、2 校だけの統合とするのではなく、学校規模が多少大きくなっても 3 小学校を統合したらどうでしょうか。中学校に進学したときに、小さい方の小学校の子どもは、嫌な思いをするのではないのでしょうか。

A2 教育委員会では、小規模校の統合は望ましい学校規模を確保し、子どもにとってよりよい教育環境とすることが重要と考えています。久方中学校区にある 3 つの小学校を統合することとした場合には、望ましい学校規模(12~24 学級)の範囲を超える規模になると想定しており、検討の対象とはしませんでした。

Q3 統合をするのであれば、もともとの母体校である高坂小学校で統合するのが良いと思いますが、どうでしょうか。

A3 どの小学校、どの学区(地域)にもそれぞれ歴史があります。統合については、それぞれの学校・地域の歴史を大切にしながら、子どもたちのことを第一に考え、新しい学校を開設するという考え方のもとで進めていくことが重要と考えてい

ます。

教育委員会の統合（案）では、新しく開校する学校に通うこととなる子どもたち全体のことを考え、通学距離や敷地面積などを踏まえた上で、しまだ小学校の場所での開校を目指して進めていきたいと考えています。

Q4 しまだ小学校は、国道 302 号線までボールが飛んでいくといけないからという理由で、運動場で野球ができないと聞きましたが、本当でしょうか。（このほか、「しまだ小学校の運動場は狭く、野球もできないと聞いている」というご意見もありました。）

A4 しまだ小学校の部活動には野球部があり、校庭で活動しています。運動場が狭いため、活動に支障が生じているということはありません。（運動場面積は、しまだ小学校の方が高坂小学校より広がっています。）

また、国道 302 号線までボールが飛ぶ等の理由で、活動に制約を受けているということも確認できませんでした。

Q5-1 しまだ小学校は、統合してもなごや小のように校舎の改築をしないと聞いていますが、本当ですか。

Q5-2 しまだ小学校はハザードマップ上、校地内に液状化発生の可能性の高いエリアがあるとされています。隣接地に高压電線の鉄塔もあり、危険です。また、校舎が南側に位置しているので、運動場への日差しがさえぎられます。職員室から運動場全体が見通すこともできていません。こうした中で、しまだ小学校を統合場所とするのは心配です。

A5 「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」では、学校統合を契機に老朽化の進む学校施設の早期改善を図り、安心・安全・快適な施設環境の確保を目指すこととしています。

ご意見にありますように、しまだ小学校の敷地内には高低差があること、敷地の一部に液状化の可能性の高いとされている箇所があること、また敷地の南側に校舎があり、運動場の日差しがさえぎられる場合があること、職員室から運動場の一部が見通せない配置となっていることがあります。

教育委員会では、しまだ小学校の敷地条件を踏まえた上で、子どもたちにとって安心・安全・快適な教育環境となるよう、施設整備の検討を進めています。整

備の方向性の案が決まりましたら、お知らせします。

なお、令和2年1月に隣接地にある送電線鉄塔について中部電力に確認したところ、法令の基準を満たす設計がなされているとのことでした。

Q6 しまだ小学校の敷地には高圧電線が通っており、電磁波が心配です。

A6 しまだ小学校運動場の西側端の上空の一部に送電線がありますが、鉄塔が校舎南側に隣接するがけ地の上にあることもあり、通常より高度が高いため、国の規制値を大きく下回り、影響は小さくなっています。

令和2年2月に中部電力により磁界を測定していただいたところ、いずれも国の規制値を大きく下回る数値となっています。国の基準値は200マイクロテスラとなっていますが、正門（送電線の真下）で測定したところ0.07マイクロテスラ、校庭内の送電線の真下で測定したところ0.15マイクロテスラでした。

なお、身の回りの磁界レベルは、電気カーペットは19マイクロテスラ、ドライヤーは3.7マイクロテスラ、液晶・プラズマテレビは0.1マイクロテスラです（中部電力パワーグリッドホームページ、電磁界（電磁波）の基礎知識、身の回りの電磁界参照）。

4 子どもたちの通学についてのご質問

Q1-1 統合して新しい学校に通うとしても、せめて15分以内で通えるような場所になりませんか。幼い子どもを歩かせたくはありません。

Q1-2 小学校5年生と2年生で、久方中学校からしまだ小学校まで歩きましたが、26分かかりました。

Q1-3 統合した場合、どうしても通学時間が大幅に増える子どもが出てきます。子どもの安全面を考えて、通学する小学校を中学校ブロック内の小学校で選べるようにはならないですか。

A1 学校の統合により、通学距離が長くなったり、通学路がこれまでと変更したりすることによる子どもたちへの負担に配慮し、通学上の安全面についての対策を講じることは大変重要と考えています。

教育委員会では、統合に当たって、通学は徒歩を基本とすること、距離は小学校では概ね 2 キロメートルを目安とすることとしています。通学時間の目安は、設定していません。名古屋市内には 2 キロメートルを超える距離を通学する子どももいますが、多くの小学校がこの目安の範囲内にあります。

統合に伴う通学距離の考え方については、ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画を策定する際にも、学識経験者や地域関係者等による懇談会の中でご議論いただきました。その中では、「なごや小の場合では、統合に伴い、江西学区の児童の通学距離が長くなることが課題であったが、実際に通学してみると、1 年生も元気に登校している。許容できる通学距離かは親の考え方によっても違うのではないか」、「通学については、児童のコミュニケーションが大事であり、皆で一緒に通う姿が望ましい」といったご意見をいただきました。

高坂小学校としまだ小学校との統合では、統合場所をしまだ小学校とすることで通学距離は 2 キロメートルを超えることはありませんが、子どもたちが安全に、また安心して通学できる方策については、保護者や地域の皆さまとともに検討していきたいと考えています。

Q2-1 統合すると長距離通学になる子どもがいて、通学途中の事故などの心配があります。重い荷物をかかえ、夏には熱中症なども心配です。

Q2-2 子どもと一緒にしまだ小学校まで歩いてみました。子どもたちは信号をよく見ていないし、集中力もなく、交通スキルの必要性を実感しました。

Q2-3 暑い夏には水筒のお茶がなくなってしまうますが、低学年の子が自主的に水を補充することができるかどうか心配です。

Q2-4 昨年、緑区のパチンコ店の景品交換所で強盗事件が起きましたが、犯人はまだ捕まっていません。子どもたちの登下校に関しては、不審者対策が必要ではないですか。

A2 統合によって通学路が変わり、通学時間が長くなることによって、通学上のより一層の安全確保や、登下校時の荷物・熱中症への配慮は、大変重要な課題と考えています。

通学時の安全対策については、なごや小学校の場合には①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、

⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施を行いました。統合して新しく開校する学校の通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携し、具体的な方策を検討していきたいと考えています。学校での交通安全指導にも取り組みたいと考えています。

登下校時の荷物や熱中症への対策については、現在も各校で取り組みが実施されていますので、それぞれの学校での取り組みを持ち寄りながら、新しく開校する学校での通学の在り方を検討していきたいと考えています。

不審者等に対する登下校時の安全確保策として、現在「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みも踏まえながら、学校・家庭（保護者）・地域の皆さまとともに、子どもたちの通学の安全について検討したいと考えています。

5 地域や学校の跡地についてのご質問

Q1 学区から小学校がなくなると、若い世代が入ってこなくなるのではありませんか。小学校があると子どもが増え、街が活性化するのではありませんか。

A1 教育委員会では、子どものことを第一に考え、「クラス替えのできる学校規模」「子どもにとってよりよい教育環境」を整備する取り組みを進めることが重要と考えています。

Q2 学区内では世代交代の動きがあり、古い民家を取り壊され、複数軒の新築分譲住宅ができたり、空き地が分譲されたりしています。子どもの数の増加の見通しは、十分にあるのではないですか。

A2 高坂小学校は、各学年 1 クラスという市内でも小規模化の顕著な小学校の一つとなっています。令和 7 年度までの児童数の推計を見ても、各学年でクラス替えができる学校規模になるという見込みがありませんので、望ましい学校規模を確保するためには、統合が必要であると考えています。

Q3-1 学校がなくなると、避難所や選挙投票所などがなくなってしまうのではないですか。

Q3-2 小学校の跡地が避難所となった場合にも、野ざらしになってしまうことはありませんか。

A3 統合により使用しなくなる校地や校舎は、地域、保護者の皆さまの声もいただきながら、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しつつ、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討したいと考えています。

6 その他のご質問

Q1 市内には、高坂小学校より規模の小さな小学校もありますが、どうして高坂小学校を一番に統合しようとするのですか。他区の歴史のある小学校は、存続することに決定したと聞きましたが、本当ですか。

A1 少子化が進む社会状況の中で、本市では、望ましい学校規模を確保することを通して子どもたちの教育環境を改善するため、平成 31 年 3 月に「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」を策定しました。この計画では、11 学級以下の小規模校について、15 年の計画期間の中で望ましい学校規模（小学校は 12～24 学級）にしていくため、統合等を進めることとした内容となっています。計画では、小規模校でありその状態が継続するなどの条件に当てはまるすべての学校を対象にしています。

「高坂小学校保護者説明会」の開催結果、及び「高坂小学校統合について保護者の意識アンケートの結果」について

令和2年7月20日（月）19時から高坂小学校体育館で、高坂小学校の保護者の方を対象とした「高坂小学校保護者説明会」を開催しました。当日、PTA 役員の方から「高坂小学校統合について保護者の意識アンケートの結果」をいただきました。

説明会当日のご発言、及び「高坂小学校統合について保護者の意識アンケートの結果」に記載されたご意見・ご質問と、それらに対する名古屋市教育委員会の考え方をまとめました。

なお、内容について趣旨の類似するものはまとめさせていただいたほか、原文を一部要約し、また分割して掲載しておりますのでご了承ください。

○高坂小学校保護者説明会

日時：令和2年7月20日（月）19時00分～20時10分

場所：高坂小学校体育館

参加人数：保護者11人、子ども3人

1 統合についての考え方に関すること

（1）統合のメリットについて

- ・6年間という長い期間に多くの友達や先生と学ぶ機会が増えると思う。
- ・クラス替えがあるといいと思う。
- ・娘の学年は男女比にかなりの偏りがあり、何とかならないかと常々思っている。
- ・少人数で目が行き届く現在の状況は、とてもありがたいと思うものの、やれる遊びやスポーツの幅が狭まっているようで、遊び相手が少なく集団で行動することが高学年男子なのにあまりできない。
- ・1クラスしかないとクラスメイトが6年間ほぼ同じで環境もほとんど変わらないため、上の子は中学に入ったときに環境の変化についていけず心が折れてしまった。2クラス以上あるほうが環境の変化等が経験できてよいので、合併には賛成である。

（2）小規模校のよさについて

- ・孫の友達の話であるが、転入前の学校では暴れていた子どもがいた。その子どもが高坂小学校に転校してきたところ、みんながちゃんと自分を見てくれるから暴れる必要がなくなったと言っていた。承認欲求が満たされて自己肯定感が高まってから、初めて切磋琢磨できるようになる。

- ・幼稚園は大人数で切磋琢磨していたが、高坂小学校は少人数で信頼関係があつていいと思う。20人でやっていくしかないから、いじわるもないし優しい子ばかりである。
- ・2年生はこの1年間に生徒が3名増え、21名になった。1年生も21名います。授業を受けるにも、友達を作るにも、ソーシャルディスタンスを保つにも、ちょうどよい人数である。
- ・小規模校にも大規模校にもそれぞれメリット、デメリットがある。なぜ、小規模校のデメリットだけに注目して統合を進めるのか。現在、高坂小学校に通う子どもたちを見ていると、メリットしか感じない。誰も困っていないのに、無理に統合を進める必要があるのか。
- ・望ましい学校規模とされているのは国庫負担の交付条件であつて、教育活動そのものではない。
- ・クラス替えと強調するが、推し進めたい側の都合のいい言葉のようにしか聞こえない。財政面から、設備費や人件費を削りたいと言われたほうが「なるほどね（でも反対）」と思えてならない。
- ・「小規模校統合については、国の方針」と口にするが、名古屋市として「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」と銘うつくらいなら、独自の方針をまとめて実行したらいい。
- ・なぜ小規模校のデメリットだけを注目して統合をすすめるのか。誰も困っていないのに、無理に統合をすすめる必要があるのか。

教育委員会の考え方

- ・名古屋市では、平成29年10月から、学識経験者や学校関係者、保護者、地域の関係者等からなる「学校規模適正化推進懇談会」（以下「懇談会」といいます。）を開催しました。この懇談会では、「クラス替えができる学校規模が確保され、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れることで、社会性や規範意識を身に着けることが重要である。」「学校は第一に子どもたちのものであつて、そこに地域コミュニティや防災の拠点といった役割が加わるので、子どもの利益が最初に考えられなければならない。」との意見がありました。ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画はこの懇談会での意見を踏まえて策定したもので、教育委員会ではこの計画に基づき、望ましい学校規模を確保する取り組みを進めています。
- ・教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。また、懇談会においても名古屋市の望ましい学校規模ということで設定しました。
- ・小規模校には、学校行事で活動の場を与えやすい、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすいといったよさがありますが、その一方で、人間関係の固定化が生じやすい、体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる、また、指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなるといった課題などがあります。
- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。

- ・教育委員会では、小規模校の課題を解決しつつ、高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境にしていくことが必要と考えています。
- ・3つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができてうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった声を多くいただいています。

（３）教員の負担について

- ・現状、学校区で偏差値が違いうように、平等な教育は単なる理想論でしかないのは明白である。家庭の経済状況の差異でも、塾に行く、行けないなど格差がある。都市単位で義務教育の規模が違うのも、人口数で違って当たり前である。現状で教員の負担が…というのなら、名古屋市の独自制度でアシスタントやサポーターを作ってはどうか。

教育委員会の考え方

- ・いじめや暴力行為といった子どもの問題行動、不登校等は深刻化しており、教育上の大きな課題となっています。その要因・背景は、学校、家庭、地域や友人関係を始め多様であり、教員だけではなく、様々な専門的知識・経験を持ったスタッフが連携・協力し、組織的な支援体制を整えることが求められています。一方、多くの教育現場で、教員の負担を軽減するとともに、家庭や地域との連携をより一層図ることが求められています。また、問題が起きた後の対応だけではなく、すべての子どもたちの発達を支援することが必要です。こうした課題に対応するため、名古屋市では、常勤のスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、スクールアドバイザーの3職種と、非常勤のスクールポリスからなる「なごや子ども応援委員会」を平成26年4月に設置しました。令和2年度からは、従来のスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの業務を一体化し、より広い視点から総合的に子どもを応援・援助する総合援助職を配置し、より効果的な支援を行うことを目指しています。
- ・「なごや子ども応援委員会」は、学校と共に、問題の未然防止、早期発見や個別支援を行い、子どもたちを支援する体制づくり（①未然防止につながる取り組みの支援を行います。②学校内の日常活動を通して、教員と協同し、子どもたちの悩みや心配事の早期発見に努めます。③幅広い相談対応を行います。④家庭、地域、関係機関との連携を強化します。）を推進しています。
- ・望ましい学校規模となった場合には、小規模校であった頃と比較すると教職員数が増えるため、例えば校務の事務分担はより多くの教職員で分担できるようになります。また、学年が複数学級となれば、学年ごとに準備が必要となる遠足や校外学習などの取り組みを担任同士で分担して計

画・立案したり、実施したりすることができるようになります。

- ・運動会や学芸会・作品展などの学校全体の行事においては、より人数の多くなった教職員がそれぞれの役割を分担することで、小規模校の頃よりも負担軽減を図ることができるようになります。
- ・小規模校では、事故・ケガなど緊急時に対応することのできる教職員が少ない状況ですが、そうしたことも解消されます。
- ・統合したなごや小の例では、平成26年度に当時単学級であった旧江西小学校（以下「旧江西小」といいます。）、旧那古野小学校（以下「旧那古野小」といいます。）の教員は11人でしたが、この2校と旧幅下小学校（以下「旧幅下小」といいます。）が統合して開校したなごや小では、平成29年度の教員数が21人となりました。多くの教職員で協力分担しながら、教育活動・学校運営を行うことができるようになりました。
- ・小規模校の教職員からは、「子どもたちの人間関係の固定化や、教員一人あたりの校務の負担などを日々感じている」、「単学級の場合、運動会や様々な行事の時にクラスの中で常に半分に分かれていけないというのは、子どもたちにとってクラスで団結することがないので少しかわいそう」といった意見があがっています。
- ・統合においては、学校の移転や新しい学校づくりに伴う事務などが発生し、教職員の負担となることが考えられますので、学校現場の負担軽減に努めたいと考えています。

2 統合（案）に関すること

（1）統合相手校・統合場所について

- ・高坂小学校に残ってほしい。
- ・子どもは、「高坂小が大好きだ！小学校全体で皆、仲が良い。6年生までずっと高坂小学校に通いたい。」と言っております。高坂小学校を残してほしいです。高坂小学校は、生徒間も先生とも信頼関係がある良い小学校なので、残してほしいです。他学年交流ができる良い小学校です。
- ・私自身も高坂小出身である。母校が閉校となるのは大変残念。未来の卒業生のためにも、存続を希望する。
- ・高坂小学校の事を地域の住民の一人としてとても大切に思っている。無くなってしまう道を探せたらと思う。
- ・しまだ小学校と高坂小学校の間に新しい小学校を設立してもらえたらよいと思うが、場所はあるのか。
- ・高坂の地域独特の具対策はまだないのか。統合が決定してからでないと具体的な案が出ないのか。例えば、しまだ小学校の施設整備はどこをどうやるのか。
- ・大雨があったとき、土砂災害警戒区域にしまだ小学校の敷地の一部がかかっていた。液状化の区域にも入っていた。

- ・しまだ小は、液状化の心配がある。高坂小の安全な立地から、なぜ危険なしまだ小に行かなければいけないのか、納得できない。施設整備の検討をするということだが、地盤の強化は簡単ではない。費用と時間はどれくらいかかるのか。どのような工事を行うのか。
- ・しまだ小学校は国道 302 号線の近くのため、窓は二重サッシになっていると聞いた。車の排気で空気が悪いと考えられるが、その中で運動させているのか。
- ・子どもの人数が少ないのであれば、高坂小学校の学区を広げてほしい。天白小学校の土原地域の 1 年生は、夏は暑くて歩いて通学できないと聞いている。
- ・小さな中学校ブロックでの考えではなく、年数をかけるなら天白区全体を考えるべき。直線上 2 km で学校と学校の距離を折半すれば、極端に遠い子どもがいなくなる。
- ・しまだ小の地盤の強化は簡単ではないと思う。費用と時間はどれくらいかかるのか。どのような工事を行うのか、あわせて教えてほしい。

教育委員会の考え方

- ・高坂小は、昭和 44 年に開校してから保護者や地域の皆様に支えられた教育活動が進められており、「ペア学年活動」や「高坂水田」、「ふれあいあそび」といった取り組みが行われています。また、平成 29 年度には特に優良な少年消防クラブの総務大臣賞を受賞するなどの実績も収めています。統合については、これら高坂小のよさを継承・発展させながら、子どもたちにとってよりよい教育環境となるよう新しい学校づくりを進めてまいります。
- ・統合を契機に必要な施設整備を行うことにより、施設面での充実に取り組むことを考えています。しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）での施設整備については、液状化の可能性や土砂災害警戒区域を踏まえた建設計画を行い、設計（基本設計・実施設計）に反映していく予定です。工事内容について具体的にお知らせできる段階となりましたら、改めてお知らせしたいと考えています。
- ・しまだ小の窓は、二重サッシにはなっておりません。国道 302 号線により、排気ガス等が学校に悪影響を及ぼしている事実も確認できませんでした。
- ・名古屋市では、学校が多く地域組織や活動に支えられており、通学区域が地域活動の単位となっています。子どもが健やかに成長し、社会性を身に付けていくためには、家庭、学校、地域の協力が不可欠であると考えています。そのため、原則として現行の通学区域を前提とした統合により、地域全体で子どもを育む教育が実施できるようにしていきたいと考えています。

（２）子どもへのケアについて

- ・統合後も子どもたち優先での対応をとってほしい。学年途中での統合になった場合、子どもたち同士が仲良くなれるように時間を作って寄り添ってほしいと思う。
- ・環境がガラッと変化してしまうので、子どもたちの事前のケアをしていただきたい。

教育委員会の考え方

- ・統合によって二つの学校が一つになること、また、これまで通い慣れた学校の場所が変わることについて、子どもたちの心理的な負担に配慮していくことは重要であると考えています。
- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」でも、子どもの中には「学校の様子が変わること」、「新しい友達ができるのか」などの心配があったという子どももいました。こうした子どもの気持ちにも寄り添いながら、新たな人間関係がスムーズに構築でき、新しい学校に慣れ親しむことができるようにしていくことが大切だと考えています。
- ・統合に向けては、スクールカウンセラーの活用やなごや子ども応援委員会との連携を図るとともに、学校の中で子どもたちに一番身近な教職員同士での情報交換を進めるなど、子どもたちの実情を踏まえつつ対応していきたいと考えています。

(3) 統合校への通学について

- ・2kmでも平坦な道とアップダウンのある道を一緒にしないほしい。1年生が通学に耐えられるか。
- ・教育委員会の職員も2kmを歩けるのか。1週間毎日歩いてみてほしい。
- ・子どもに20分～30分以上歩かせることをしてはいけない。
- ・真夏の暑い日にしまだ小学校まで通うのは地獄。
- ・高坂小学校は近いので元気に通えますが、しまだ小学校に通うと熱中症になりそうです。
- ・低学年の小さい子どもには、出来るだけ近い学校に通わせてあげたい。今でも夏は「暑い、疲れた」と言って帰ってくる。しまだ小になると今の倍の距離になるため、体力的に心配。
- ・通学路についても子どもが少ない方面に対して特に安全な対策をお願いしたい。
- ・通学時の安全対策に青信号の時間延長などを挙げているが、大根の交差点で本当に可能か。
- ・通学距離が遠くなる家庭の学区を変えることを検討してもよいのではないか。
- ・高坂小学校の統合に際し、相生小学校に通学先を選択できるようにして欲しくないか。
- ・行政区にこだわらず例えば、緑区の梅里地域からも通学してもらってもいいのではないか。
- ・天白小が多すぎるので土原4丁目、5丁目を思い切って高坂学区にしてみてもどうか。
- ・高坂学区に近い土原に住んでいる地域の方を高坂小へなど、もう少し通学区域を見直してもいいのでは。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、小学校の通学距離は概ね2kmを目安としています。通学距離については、市内のほとんどの小学校において、教育委員会が目安としている概ね2kmの範囲内に収まっています。
- ・高坂小としまだ小での統合（案）では、高坂学区の最も遠い地点からしまだ小までの距離は1.7kmになると考えています。

- ・なごや小のアンケートでは、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもも中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・熱中症対策は、学校に帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参などについて学校とともに検討したいと考えています。
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保策として、現在「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども 110 番の家」などがあります。こうした取り組みも踏まえ、子どもたちの通学の安全確保を検討してまいります。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携しながら、また保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに子どものことを第一に考えた安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施を行いました。
- ・学校は多くの地域組織や活動に支えられており、学校教育は学校・家庭・地域の連携・協力の中で進められることが重要と考えています。高坂小でも、「高坂水田」、「ふれあいあそび」などの取り組みが行われています。統合においては、こうした点も踏まえて検討します。
- ・名古屋市では、学校が多くの地域組織や活動に支えられており、通学区域が地域活動の単位となっています。子どもが健やかに成長し、社会性を身に付けていくためには、家庭、学校、地域の協力が不可欠であると考えています。そのため、原則として現行の通学区域を前提とした統合により、地域全体で子どもを育む教育が実施できるようにしていきたいと考えています。

3 取り組みの進め方等に関すること

(1) 取り組みの進め方について

- ・審議会の委員は誰なのか。
- ・学識者の智慧は統合ありきで拝借するのではなく、教員の負担を減らし、子どもがよりよく育つことのためのみに照準を合わせてお伺いを立てたらよろしいかと思う。
- ・審議会の中に天白区長が含まれていないことを確認している。この高坂の在り方に責任を持つことのない人が、統合の審議をして、何があっても責任が取れない人が、「客観的に判断」とは。その人たちが見守りするわけでもなく、災害時に物資を届けるわけでもない。
- ・学校教育が税金で賄われている以上、コストがかかりすぎている学校が廃校の対象となるのは致し方ないことだと考える。ただし、現段階においてはどこの学校に統合すべきかを判断する客観的材料があまりにも少ないように思う。統合なのか学区の見直しなのか、統合で進めるのであればどこの施設がより優れているのか条件を有しているのかなどの情報を公表してほしい。全員が納得できる施策はないと思うが、もう少し判断材料を提示してほしい。

- ・なごや子どもの権利条例により、「発達段階に応じて意見を表明する機会が与えられること」の権利が保障されている。統合していいかを子どもたちに聞くべきである。
- ・少人数クラスの良さもたくさんある。子どもたちの意見をしっかり取り入れて頂きたい。
- ・子どもファーストで考えを進めているとは思えなくて、不信感・不審に感じる。
- ・高坂水田については、教育長が市議会で止めると発言していた。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会が統合の取り組みを進めていくためには、中立性や客観性が求められるとともに、専門的立場からの見識や判断等が必要と考えています。そこで、教育委員会の附属機関として、条例に基づく審議会を設置しています。審議会の委員は、学識経験者の他、小・中学校の保護者、地域コミュニティの代表者、学校関係者で構成しています。
- ・審議会については、名古屋市公式ウェブサイトにて情報提供しています。また、高坂小の統合に向けては、今後とも保護者や地域の皆様への情報提供に努めてまいります。
- ・教育委員会では、子どものことを第一に考えながら、保護者や地域の皆様の声を丁寧にお聞きし、また学識経験者等による調査・審議の結果も踏まえながら、統合に向けた取り組みを進めたいと考えています。
- ・子どもの意見を聞いてほしいとの意見がありますが、現在は、まだ統合を決定する前の段階です。学校統合に向けては、まずは保護者を始めとする皆さまからご意見をお伺いするとともに、学識経験者等による専門的立場からの見識や判断も得ながら、検討を進めたいと考えています。そして、統合の決定後、統合校の開校に向けた協議をする段階（ステップ5）で、子どもたちから新しく開校する学校についてのアイデアを募集していきたいと考えています。
- ・高坂水田について、令和2年3月5日の市議会において教育長は「高坂水田のような教育活動につきましても、個別プランに盛り込む事項ではございませんが、取組の継承につきましても、統合決定後の新しい学校づくりの中で、関係者の御意見もお聞きしながら検討してまいりたいと考えております。」と答弁しています。

（2）保護者・住民への周知方法に関すること

- ・今日の説明会の開催について納得していない。小さい子どもがいると平日の夜は参加できない。
- ・時間になったら説明会が終わりというところが形だけの説明会だと感じた。参加人数が少ないのだから、もっと時間を伸ばして意見を聞いたらいいと思う。
- ・地域住民を対象とした説明会をしてほしい。
- ・昨年度に予定していた未就学児保護者相談会がコロナウイルス感染症の影響で延期になったが、その後の連絡がない。

教育委員会の考え方

- ・昨年度の説明・意見交換会は、保護者・地域の方を対象として、金曜日の夜間及び土曜日の午前中に開催しました。本日の説明会の内容は、昨年度の説明・意見交換会の内容と同じものとなっています。説明会の開催方法などにつきましては、いただいたご意見も参考とさせていただきます。
- ・昨年度の未就学児保護者の方に対して、当初3月に未就学児保護者相談会の開催案内を送付しましたが、新型コロナウイルス感染症のため中止としました。そして、今年度の未就学児保護者の方に対して、今年度の6月に改めて未就学児保護者相談会の開催案内を送付しました。このため、今年度に1年生に進級した児童の保護者の方には、未就学児保護者相談会の通知が届いていない場合があります（なお、今年度1年生の保護者の方には、入学説明会において高坂小統合に関する説明をしています。）。今後の周知方法については、ご意見を参考にさせていただきます。
- ・今後も、名古屋市公式ウェブサイトでの随時の情報更新など、できるだけ多くの皆様に情報提供できるよう努めます。

4 地域に関すること

- ・高齢化が進んでいるのに学区に学校が無くなってしまうのは、学区に魅力がなくなり、高齢化の拍車がかかるのではないかと。
- ・子どもが少なく、名古屋で1番の高齢地域なのに、名古屋市としてはなぜ対策をしないのか。

教育委員会の考え方

- ・学校は教育の場であるだけでなく、防災や地域交流の場である等など、地域コミュニティの核となっています。こうした点にも配慮しながら、子どものことを第一に考え、望ましい学校規模の確保に向けた取り組みを進めることが重要と考えています。
- ・高坂小としまだ小の統合が決定することになれば、二つの学区（地域）の子どもたちが通う新しい小学校が開校することになります。統合は、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するという考え方ではなく、新しい学校を開設するという考え方で、それぞれの学校の特色やよさを継承・発展させることが重要と考えています。

5 跡地に関すること

- ・跡地については、現地を調べて写真集も作った。コインパーキング、コミュニティセンター、私立中学校等になっていた。もし、跡地に病院や老人ホームが建設された場合には、居住者でいっぱいになり避難できなくなる。
- ・大雨や地震の時に、お年寄りがしまだ小学校まで避難が可能であると思っているか。
- ・統合に使用しなくなった校舎は、本当に災害時に使用できるか。いざというときに使えるようにし

ておくには、維持費がかからないか。誰も使用していない学校に使うお金は本当にあるか。

- ・この高坂の地域独特の具体策はまだないのか。統合が決定してからでないと具体的な案は出ないのか

教育委員会の考え方

- ・現在の高坂小は、地域の避難場所やレクリエーションでも使用している場所ですので、跡地の検討は、こうした点も踏まえて検討したいと考えています。
- ・統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。
- ・これまでの学校跡地は、西区の旧江西小（インターナショナルスクール）、旧那古野小（会議室、シェアオフィス、イベントスペース等）、中村区の旧新明小学校（コミュニティセンター）、旧六反小学校（私立中学校）、旧本陣小学校（中村区役所等複合庁舎（予定））、旧亀島小学校（民間保育園、公園、地域住民利用施設、サービス付き高齢者向け住宅（予定）等）となっています。

6 新型コロナウイルス感染症に関すること

- ・コロナで「密」がだめとなっている今、中規模校との統合をする意味が分からない。高坂で個々を大切にするという学びができていながらもかわらず、教育委員会の「望ましい学校規模」のために、コロナリスクや熱中症、交通事故のリスクを負ってまで、子どもが命懸けで登校しなければならないのは納得いかない。
- ・現在、新しい生活様式が求められている状況下である。それでも統合をすることは、教育現場にいらっしゃる先生方、子どもたちの命の危険のリスクを高める。優先すべきことは第一に命である。
- ・新型コロナウイルス感染症から子どもたちを守るためにも、小中全学年での少人数学級を目標とし、国に財政措置を求めつつ、まずは小学校で30人学級を3年生以上に広げるべきではないか。
- ・新型コロナウイルスが発生して以降、3密対策をとるには高坂小学校のような小規模校のほうがやりやすいのではないかと。今後、世の中がどうなっていくかわからない状態で、統合の話を進めていくべきではないと思う。少なくともワクチンか治療薬が開発され、元の状態に戻るまでは話を凍結すべきだと思う。また、コロナウイルス終息後は、世の中がどんな方向へ向いていくのか、生活様式や経済がどうなるのか、今は全く分からない状態だと思う。「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」そのものを見直さないといけない。今は、統合の話を進める時期ではないと思う。
- ・コロナが収束していないのに、統合の話し合いをしなければいけないか。
- ・少人数校の方が、「新しい生活様式」を実践するのにむいているのではないかと。
- ・新型コロナウイルスが発生して以降、3密対策を取るには高坂小学校のような、小規模校の方がやりやすいのではないかと。
- ・「ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画」自体がコロナ以前に策定されたものなので、コロナ後どうなるかを見極め、計画そのものを見直さないといけないのではないかと。

教育委員会の考え方

- ・小規模校には「人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習などに制約が生じる」といった課題があります。このような課題を解決するため、望ましい学校規模を確保することが必要であると考えています。
- ・本市の小学校では、小学校1・2年生における30人学級、3年生以上は40人学級での学級編制をしています。統合する場合にも、市の基準による学級編制を行います。なお、小学校1、2年の他の学年は、少人数指導やティームティーチングにより一定の成果を上げているところです。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応については、各校で感染拡大防止に努めています。こうした点を保護者や地域の皆様に丁寧に説明しながら、統合に向けた取り組みを進めたいと考えています。

7 その他

(1) なごや小学校について

- ・統合されたなごや小の意見において、悪い意見はなかったのか。よい意見・悪い意見の両方を聞きたい。

教育委員会の考え方

- ・なごや小の保護者へのアンケートの中には、「新しい人間関係を築く中でトラブルも起こり考え悩んでいる。一つ一つ解決しながら成長していけると考えている。」というものがありました。
- ・なごや小「学校統合に関するアンケート」で、児童が困ったこととして「学級で意見がまとまりにくくなった」、「先生の名前を覚えるのが大変になった」、「手を挙げてもあたりにくくなった」などの回答がありました。
- ・なごや小の「学校統合に関するアンケート」において、「新校舎に移動する前と後で、子どもに変化が見られた」と回答した保護者の具体的な回答例は、次のとおりです。

「いじめや無視されていたことがなくなった。クラスが今まで一つしかなかったので、逃げ場がなかった。今まで狭い世界の中で頑張っていたんだと痛感した。自分に合うお友達ができて楽しそうにしている。」

「全校では少人数1クラスでトラブルが多いクラスだったため、逃げ場もなく閉塞感があったが、複数クラスになり人数も増えたことで性格による住み分けもでき、落ち着いて生活できるようになった。荒れているクラスの子には統合は救いであった。」

「広い範囲のお友達ができて、よい刺激を受けるようになった。」

「学校が遠くなって友達とおしゃべりして、とても楽しそうに家に帰ってくるようになった。」

「新しい友達にはまだまだ気を遣う気苦労のようなものを感じる。」

「新しい人間関係にストレスを感じて居心地が悪そうだった。」

(2) 学童保育等について

- ・高坂小学校は児童数が少ないため、令和3年度末で学童の閉所が決定していると聞いています。トワイライトスクールは18時までの利用しかできず、19時ごろまで働く親としては、学童の存在が大きく、家庭への影響も大きい。統合して学区の学童を守ってほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合を進めるに当たっては、学童の所管である子ども青少年局などに情報提供を行います。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

TEL : 052-972-4092 FAX : 052-972-4176

Eメール : a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

学校跡地の避難所

名古屋市では、これまで学校統合により3つの統合校を開校しています。学校統合に伴い跡地となった6つの旧小学校は、**全て指定避難所**となっています。

1 旧江西小学校



インターナショナル
スクール

(体育館等) が
指定避難所
となっています。

インターナショナルスクールの体育館

2 旧那古野小学校

シェアオフィス
(体育館等) が
指定避難所と
なっています。



シェアオフィスの体育館

3 旧六反小学校



私立中学校（体育館等）が
指定避難所となっています。

4 旧新明小学校



新明コミュニティセンター（第1会議室等）が
指定避難所となっています。

5 旧亀島小学校



亀島ふれあいセンターの全景

亀島ふれあいセンター
(軽運動室等) が
指定避難所と
なっています。

民間保育園
(食堂等) も
指定避難所
となっています。



民間保育園の全景

6 旧本陣小学校

旧本陣小学校は、中村区役所等複合庁舎
として整備中です。

中村区役所等複合庁舎
(集合会議室、
交流拠点機能等) が
指定避難所となる予定
です。

学校跡地のQ & A

Q 学校跡地は避難所にならないと聞きましたが、本当ですか。

A これまで統合による学校跡地は、**全て指定避難所**となっています。

※統合により使用しなくなった校地や校舎は、次のように有効活用されています。いずれの跡地も指定避難所となっており、地域の防災機能も確保されています。

区分	活用方法	指定避難所
旧江西小	インターナショナルスクール	体育館等（インターナショナルスクール）
旧那古野小	シェアオフィス等	体育館等（シェアオフィス）
旧六反小	私立中学校	体育館等（私立中学校）
旧新明小	コミュニティセンター、小中学校第2グラウンド等	第1会議室等（新明コミュニティセンター）
旧亀島小	民間保育園、公園、亀島ふれあいセンター、サービス付き高齢者向け住宅等（整備中）	軽運動室等（亀島ふれあいセンター）、食堂等（民間保育園）
旧本陣小	中村区役所等複合庁舎（整備中）	集合会議室、交流拠点機能等（中村区役所等複合庁舎）

Q 学校跡地の活用方法は、いつ決まりますか。

A 統合の決定後、地域のご意見等も踏まえて決定します。

※統合により使用しなくなる校地や校舎については、防災拠点等、地域に必要な機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。

Q 学校跡地について詳しく知りたいのですが。

A 市公式ウェブサイトで公開しています。

※現在、市公式ウェブサイトの「学校跡地の活用状況」のページにより、最新の情報を公開しています。

(<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000119794.html>)



担当 教育委員会事務局教育環境計画室
(電話)052-972-4092 (FAX)052-972-4176

高坂小学校としまだ小学校の統合（案）について

1 取り組みの概要

小規模校化が継続する高坂小学校と、しまだ小学校を統合します。

2 統合場所及び通学区域

現在のしまだ小学校の場所で統合校の整備を行います。（整備については下記 5、今後のスケジュールについては下記 6 を参照してください。）

通学区域は、現在の高坂小学校及びしまだ小学校の通学区域をあわせたものとします。

3 統合を想定した場合の学校数及び児童数の見込み（通常の学級）

区分	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年
学級数	15 学級	16 学級	16 学級	16 学級	17 学級	16 学級	15 学級
児童数	497 人	493 人	482 人	477 人	489 人	491 人	482 人

4 通学の安全対策

統合の決定後、統合校の開校に向けて、安全点検や地域・交通状況などの特性を踏まえて新しい通学路を設定するとともに、必要な安全対策について、関係行政機関と連携を図り、通学の安全確保に取り組めます。

5 施設整備の方向性

統合にあわせて、現在のしまだ小学校の校舎等を全面的に取り壊し、新築します。

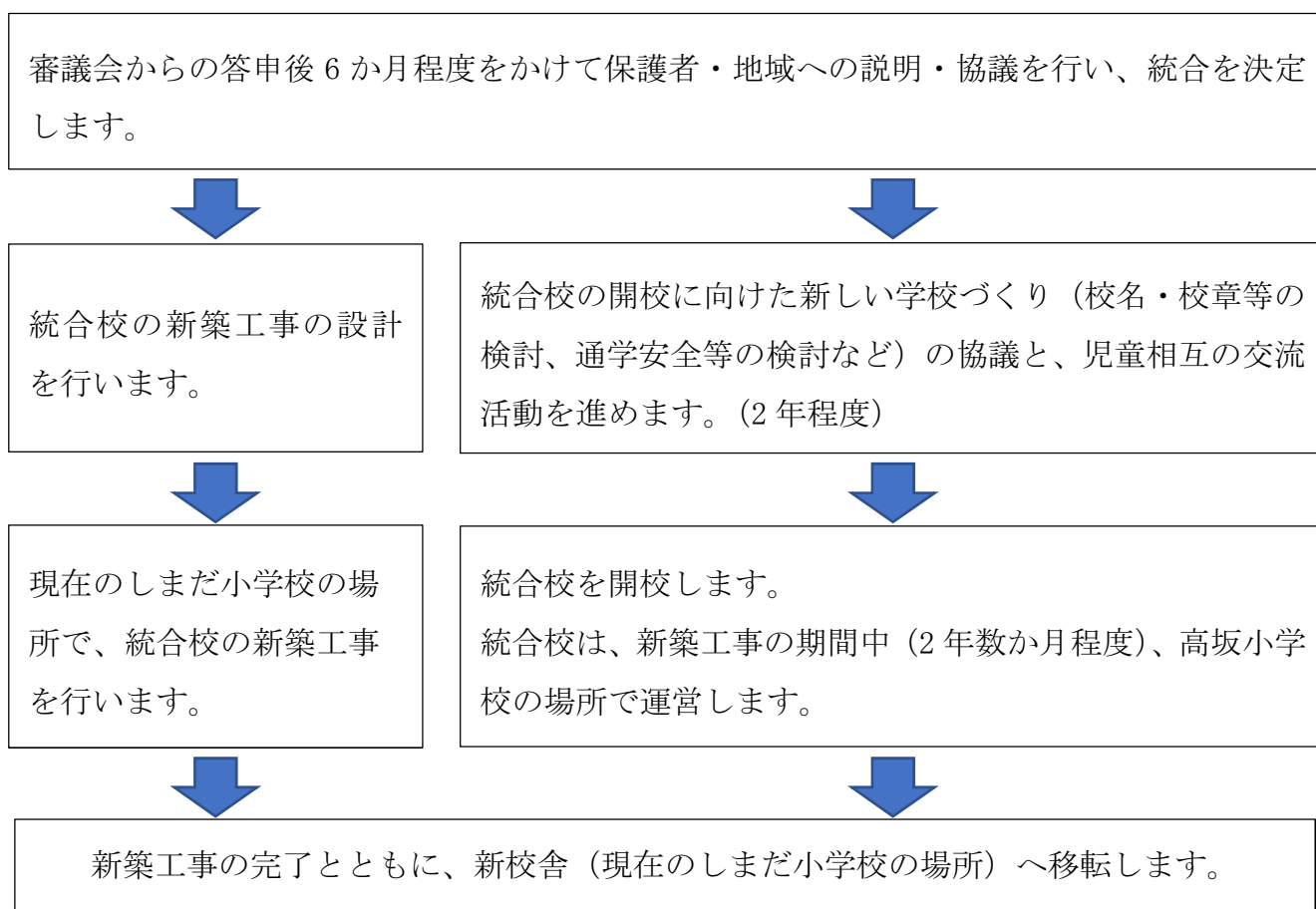


（イメージ図）

6 今後のスケジュール（想定）

統合校を新築により整備する場合、児童の安心・安全な学校生活が確保できるような学校運営等を前提とした検討が必要となります。これまでの統合校（ほのか小学校、笹島小学校（笹島中学校との併設）、なごや小学校）では、いずれも工事期間中、児童等は一時的に通学場所を変更しています。

下のフローチャートは、これまでの事例を踏まえ、想定されるスケジュールを掲載したものです。



「高坂小学校未就学児保護者相談会」の開催結果

令和2年7月31日（金）及び8月1日（土）に、高坂コミュニティセンターで高坂学区の未就学児保護者の方を対象とした「高坂小学校未就学児保護者相談会」を開催しました。

当日の主なご質問、ご意見は次のとおりです。

日時：令和2年7月31日（金）19時～21時、令和2年8月1日（土）10時～12時

場所：高坂コミュニティセンター

参加人数：26人（13世帯）

1 小規模校のよさ・学校規模についての考え方

- ・少人数は目が届きやすい。許されるならば高坂小で教育を受けさせたい。
- ・少人数では、なぜいけないのか。具体的なデータを示してほしい。
- ・児童の数は少人数の方が明らかに教えやすいし、学習効果もあがると思う。
- ・WHOでも児童数は100人を上回らないほうがいいと言われている。
- ・クラス替えができないことをデメリットというが、20人のクラスにすればどうか。
- ・個人的には統合すればいいと思っている。クラス替えがないのはいけない。

教育委員会の考え方

- ・小学校では、子どもたちが集団の中で多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することが大切であると考えており、その教育効果を上げるためには、一定の学校規模が必要と考えています。
- ・教育委員会では、小学校では12学級以上を望ましい学校規模と考えていますが、国（文部科学省）においても平成27年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が策定され、同様の考え方が望ましいとされています。
- ・小規模校には、学校行事で活動の場を与えやすい、一人ひとりの子どもにきめの細かい指導がしやすいといったよさがありますが、その一方で、人間関係の固定化が生じやすい、体育の球技などの集団学習、班活動やグループ分けなどに制約が生じる、また、指導上課題がある子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすくなるといった課題などがあります。
- ・三つの小学校が統合した西区のなごや小学校（以下「なごや小」といいます。）の子ども・保護者に対するアンケートでは、子どもたちは統合により「新しい友達ができうれしい」、「授業が楽しくなった」、「休み時間に遊ぶ友達や遊びの種類が増えた」、「行事（遠足や運動会など）で人数が増えて楽しくなった」、「たくさんの先生と話ができるのでよかった」といった意見が多く出さ

れました。

- ・本市では、小学校1年生・2年生での30人学級、小学校3年生以上は40人学級を基準とした学級編制を行っています。統合に向けては、この基準に基づき、全学年でクラス替えが可能となる12学級以上の学校規模にしていきたいと考えています。

2 高坂小学校の特色に関すること

- ・高坂小では、上の学年の子が下の学年の子の面倒をよく見てくれる。子ども同士の信頼関係も厚い。
- ・小学校がなくなるのは淋しい。

教育委員会の考え方

- ・小規模校では、異学年の交流が図りやすいということがあります。高坂小学校（以下「高坂小」といいます。）でも「ペア学年活動」が行われており、特色の一つであると考えています。異学年交流については、小規模校でない学校でも取り組まれており、しまだ小学校（以下「しまだ小」といいます。）では、令和元年度にはペア学年での遠足や地域清掃などが行われています。
- ・異学年交流などの統合校での教育活動は、それぞれの取り組みを持ち寄り、それぞれのよさを継承・発展していくことができるよう検討したいと考えています。
- ・統合に向けては、高坂小、しまだ小それぞれのよさを引き継ぎ、さらに発展する形で、新しい学校を創っていけるよう取り組んでいきます。

3 統合相手校・統合場所

- ・統合について、しまだ小が高坂小に来てくれるなら、大歓迎である。
- ・しまだ小の場所が安全であるなら、10年、15年先も安全である数値を出してほしい。
- ・しまだ小は液状化の問題がある。水害の危険性だってある。高圧電線もある。死角も多い。なぜこのような条件の悪い場所を選んだのか。高坂小は見晴らしがいい。先生も全体を見ることができる。
- ・しまだ小は建て替えになるのか。

教育委員会の考え方

- ・統合の組み合わせについては、「隣接する学校の統合を基本とする」、「原則として、同じ行政区内、同じ中学校ブロック内の組み合わせとする」等として検討することとしています。
- ・高坂小については、小規模校の状態が解消される見通しが不明な中で、しまだ小の場所で、しまだ小と統合するとの統合（案）としています。その理由は、①出身の幼稚園・保育園の状況、②学校敷地の広さ、③通学距離が概ね2km以内ということなどです。なお、なごや小では、三つの小学校の中で、敷地面積の比較などにより旧幅下小学校が統合場所として決定されました。
- ・しまだ小は指定避難所に指定されています。土砂災害の場合には、しまだ小の本館以外が指定緊

急避難場所に指定されています。洪水・内水氾濫の場合には、しまだ小が指定緊急避難場所に指定されています。

- ・名古屋市では、平成7年から防災拠点施設を優先して耐震化を進めています。平成31年4月1日現在、小・中・高校の指定避難所において、耐震診断結果から耐震化整備が必要なものはありません。
- ・送電鉄塔の設計基準については、次のとおり中部電力（令和2年1月当時）から回答をいただいています。

「電気設備に関する技術基準を定める省令」の第32条第1項に「架空電線路又は架空電車線路の支持物の材料及び構造（支線を施設する場合は、当該支線に係るものを含む。）は、その支持物が支持する電線等による引張荷重、風速四十メートル毎秒の風圧荷重及び当該設置場所において通常想定される気象の変化、振動、衝撃その他の外部環境の影響を考慮し、倒壊のおそれがないよう、安全なものでなければならない。」と規定があります。また、地震に関しては、「地震に強い電気設備のために（資源エネルギー庁編）」に「風荷重は一般的な地震動による荷重を上回るものとして評価」、「現行の風荷重基準は耐震基準としても妥当であると評価」と明記されております。以上のことから、送電鉄塔は、風荷重にて設計されていれば、地震動に対しても十分な安全性を有していると評価しています。当該鉄塔の基礎について、セキュリティ上、具体的な基礎形状（深さ、幅等）につきましては、お答えできかねますが、上記の通り、倒壊の恐れがないよう安全に設計しております。

- ・市では、個々の建物寿命を勘案しつつ、原則として概ね築80年程度まで校舎を使用するという考え方ですが、統合を契機に子どもたちにとって安心・安全・快適な施設環境が確保できるよう、学校施設の改善を図りたいと考えています。しまだ小の敷地にある高低差、送電線の状況などの敷地条件を踏まえた整備を検討します。

4 通学距離・安全対策

- ・学校の近くに家を買ったのに、今回の統合で学校が遠くなるのは困る。
- ・スクールバスを出すことはできないのか。
- ・大根の交差点を子どもたちが渡るのが一番心配。バスや車がよく通り、とにかく交通量が多い。
- ・学校の帰り道も一人になると心配である。
- ・しまだ小になったら熱中症がとにかく心配。
- ・思い切って高坂学区を半分に分けたり、久方に住んでいる人たちは相生小に通わせたりするようなことはできないのか。
- ・できるだけ近くの学校へ通わせたいと思う。希望の順位としては、①高坂小が残る、②桃山小へ通学、③しまだ小へ通学である。
- ・近くの学校（天白小、山根小など）からの通学区域変更で対応すればいい。

- ・地域の活動というが、高坂と久方とではそれほど付き合いもない。私たちのように若い世代は、学区の活動にそれほどまでにこだわっていない。「学区の再編成」を強く進めてほしい。

教育委員会の考え方

- ・本市では、小学校の通学は徒歩を基本とし、概ね2kmを目安としています。市内には通学距離が3kmを超える学校もありますが、スクールバスは運用していません（特別支援学校のみスクールバスを運用しています。）。子どもたちが徒歩で安全に、また安心して通学できる方策について検討したいと考えています。
- ・統合校である西区のなごや小のアンケートでは、当初、学校が遠くなることを心配していた子どもも中にはいましたが、統合し、新校舎に変わった後は、多くの子どもは心配がなくなったと回答しています。
- ・統合による新しい通学路については、警察や土木事務所等の関係行政機関と連携しながら、また保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、学校とともに子どものことを第一に考えた安全確保に取り組みます。
- ・なごや小の場合には、通学時の安全対策として、①狭い歩道へのガードパイプの設置、②横断歩道の設置、③注意表示の設置、④歩行者先出信号の設置、⑤自転車専用レーンの設置、⑥青信号の時間延長、⑦道路へのカラー舗装、⑧通学練習会の実施を行いました。
- ・不審者等に対する登下校時の安全確保策として、現在「子ども安全ボランティア」による見守り活動や、子どもが身の危険を感じた時に駆け込める「子ども110番の家」などがあります。こうした取り組みも踏まえ、子どもたちの通学の安全確保を検討してまいります。
- ・熱中症対策は、学校に帽子の着用、こまめな休憩、冷たいタオルやお茶の持参などについて学校とともに検討したいと考えています。
- ・学校は多くの地域組織や活動に支えられており、学校教育は学校・家庭・地域の連携・協力の中で進められることが重要と考えています。高坂小でも、「高坂水田」、「ふれあいあそび」などの取り組みが行われています。統合においては、こうした点も踏まえて検討したいと考えています。

5 取り組みの進め方

- ・今後のスケジュールはどうなっているのか。
- ・前回の相生小との統合は大反対があったからなくなったのか。
- ・お金を生み出すために統合する、と説明してもらったほうが分かりやすい。
- ・お金や人員の効率化のために、学校を廃止してしまうのは、行政サービスの観点ではありえない。
- ・教育委員会は、どういう権限で統合の事務を進めているのか。統合は、最後は誰が決定するのか。

- ・審議会の委員は誰が決めたのか。教育委員会が決めたというのでは、都合のいい人しか選んでおらず、結論ありきで決まってしまうのではないかと。
- ・高坂に子どもの数が増えるような努力はしたのか。その努力をしていないのに統合するのは順番が違う。
- ・高坂水田などは、統合を決めてからステップ5でと言っているが、その前に決めてほしい。

教育委員会の考え方

- ・統合の決定に向けては、中立性や客観性の中で、専門的立場からの見識や判断等が必要だと考えています。そのため、学識経験者等により構成する審議会を開催し、統合についての具体的な取り組み内容の調査・審議を行うこととしています（ステップ2）。この審議会での審議については、名古屋市公式ウェブサイトにおいて、広くお知らせしていく予定です。審議会での審議後、保護者・地域の皆様には、統合に向けた具体的なスケジュール、新しい学校の整備計画を含めた具体的な統合プランの全体像をお示しし、説明・協議を行いたいと考えています（ステップ3）。その後、統合を決定します（ステップ4）。統合決定後は、関係する学校の保護者・地域の皆様と、統合校の開校に向けた新しい学校づくり（校名・校章・校歌、施設整備、通学安全等）についての協議を進めることとしています（ステップ5）。
- ・小規模校のさまざまな課題を解決し、子どもたちのよりよい教育環境を整備するため、教育委員会では、平成22年9月に「小規模校対策に関する実施計画」（旧計画）を策定し、6学年すべてが単学級でその状況が継続する見込みのある学校を中心に統合を進めることとしていました。旧計画では、高坂小学校も対象校の一つとなっており、同一中学校ブロック内で隣接する（当時）小規模校であった相生小学校を統合相手校としていました。
教育委員会では、旧計画の取り組みは、保護者や地域の代表者の協議による合意形成を図ることと進めてきましたが、三つの小規模校が統合して開校した「なごや小学校」の他には、統合の取り組みは進みませんでした。
- ・教育委員会は、学校の設置、管理及び廃止に関する事務を管理・執行することとされています（地方教育行政の組織及び運営に関する法律 第21条）。なお、学校の設置・廃止については、条例の改正が必要ですので、市議会の議決を経ることになります（地方自治法 第96条）。
- ・教育委員会では、統合を進めていく際には、中立性や客観性の中で専門的立場からの見識や判断が必要と考えています。今後、学識経験者等により構成する名古屋市子どもいきいき学校づくり推進審議会での具体的な取り組み内容の調査・審議を行う予定です。
- ・高坂水田など特色ある教育活動を始めた学校のよさを継承、発展については、新しい学校の開校に向けた保護者・地域・学校との協議（ステップ5）により決定したいと考えていますが、それ以前の段階でお聞きしたご意見も踏まえてまいります。

6 保護者・住民への周知方法

- ・分譲（の戸建て）を買った人に聞くと、高坂小の統合を知らない人ばかり。統合の情報は入っていない。子どもがいない家庭もある。不動産のチラシには「高坂小〇分」と書いてある。

教育委員会の考え方

- ・統合についてのお知らせは、学区での地域回覧をお願いするとともに、名古屋市公式ウェブサイトを随時に更新するなどにより、できるだけ多くの皆様に情報提供できるよう努めてまいります。

7 地域に関すること

- ・小学校がないと町が衰退する。高坂学区は子どもが増える。
- ・地下鉄の桜通線で、「相生山」の駅ができてから、久方・高坂に住む人は増えてきた。まだまだ伸びる要素がある。
- ・統合の場所は、高坂小がよい。話を聞いていると、地域は二の次と思えて仕方がない。もしも高坂小をなくしたら、地域から学校を奪ったら、高齢化率がさらに上がると思う。そのように思わないか。そうでないならば「統合しても高齢化率は上がらない」というデータを示してほしい。
- ・小学校がなくなると地元の経済が沈んでしまう。

教育委員会の考え方

- ・教育委員会では、子どものことを第一に考え、「クラス替えのできる学校規模」「子どもにとってよりよい教育環境」を整備する取り組みを進めることが重要と考えています。高坂小は、各学年1クラスという市内でも小規模化の顕著な小学校の一つとなっています。令和7年度までの児童数の推計を見ても、各学年でクラス替えができる学校規模になるという見込みがありませんので、望ましい学校規模を確保するためには、統合が必要であると考えています。
- ・望ましい学校規模の確保に向けた取り組みに当たっては、学校が教育の場であるだけでなく、防災や地域交流の場である等など地域コミュニティの核となっている点にも配慮しながら、子どものことを第一に考え、進めることが重要と考えています。
- ・今般の説明・意見交換会で提示した統合（案）のように高坂小としまだ小の統合が決定することになれば、二つの学区（地域）の子どもたちが通う新しい小学校在現在のしまだ小の場所に開校することになります。統合は、一方の学校を残し、他方の学校を廃止するという考え方ではなく、新しい学校を開設するという考え方で、それぞれの学校の特色やよさを継承・発展させることが重要と考えています。

8 跡地に関すること

- ・統合すると跡地はどうなるのか。避難所がなくなってしまうのは困る。

教育委員会の考え方

- ・統合により使用しなくなる校地や校舎は、防災拠点等、地域の防災機能に配慮しながら、余剰となる資産の有効活用を全市的な視点で検討します。
- ・これまで統合により使用しなくなった校地や校舎は、いずれも指定避難所等となっており、地域の防災機能も確保されています。
- ・学校の統合後も、引き続き防災機能を確保して欲しいとのご意見を多くいただいていますので、その点を十分に踏まえて検討してまいります。

9 新型コロナウイルス

- ・現在、これだけ新型コロナウイルスの感染が問題となっている中で、統合して子どもの人数が増えることは望ましくない。感染のリスクが高まる。小規模の学校での教育が望ましい。
- ・コロナとずっと生きていくことになる。小規模校ではオンライン授業が成り立つ。塾は先行してオンライン授業をしている。
- ・統合するにしても、コロナには、配慮してほしい。

教育委員会の考え方

- ・小規模校には「人間関係の固定化が生じやすい」、「体育の球技などの集団学習などに制約が生じる」といった課題があります。このような課題を解決するため、望ましい学校規模を確保することが必要であると考えています。
- ・新型コロナウイルス感染症への対応については、すべての小学校で感染拡大防止に努めているところです。こうした点を保護者や地域の皆様に丁寧に説明しながら、統合に向けた取り組みを進めたいと考えています。

名古屋市教育委員会事務局総務部教育環境計画室

TEL : 052-972-4092 FAX : 052-972-4176

E メール : a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp